

平成 22 年度
筑波大学附属学校教育局
データ集



平成 23 年 3 月
(2011 年)
筑波大学附属学校教育局

平成22年度 筑波大学附属学校教育局データ集

(※掲載したデータは平成22年度における各附属学校の取り組みを中心にまとめたものである。)

目次

1 大学と附属学校との連携に関する具体的方策

- (1) 「附属学校教育局プロジェクト研究」への取組状況……………P5
- (2) 「大学が開設する教職科目等への附属学校教員の協力」の実施状況……………P6
- (3) 「大学教員等による附属学校への出前授業等」の実施状況……………P7
- (4) 教育実習等の受入状況……………P9
- (5) 「科学の芽」賞の実施状況……………P11
- (6) 「オリンピック教育」への取組状況……………P13

2 初等中等教育の教育拠点形成に関する具体的方策

- (1) 3つの拠点構想に関する取組状況……………P14
- (2) 全国規模の研究発表会等の実施状況……………P15
- (3) 教育方法・カリキュラム等のモデル開発及び成果の発信状況……………P18
- (4) 教員免許状更新講習への取組状況……………P22
- (5) 留学生等の受入及び附属学校生徒の海外派遣状況……………P27
- (6) 国際交流協定締結状況……………P28
- (7) 国際教育事業への取組状況……………P29
- (8) 教員の海外派遣、海外からの教員研修の受入状況……………P31
- (9) 附属学校等出版物刊行状況……………P33

3 特別支援教育の総合的支援体制の充実にに関する具体的方策

- (1) 超早期教育への取組状況……………P35
- (2) 特別支援教育研究センターの取組状況……………P35
- (3) 普通附属と特別支援との連携状況……………P37

4 社会貢献・地域連携

- (1) 研修会・公開講座の実施状況……………P41

5 管理運営

- (1) 附属学校児童生徒定員等一覧……………P43
- (2) 附属学校教員現員数……………P44

所在地・連絡先……………P45

はじめに

筑波大学には11校の附属学校があります。大塚地区には小学校、中学校、高等学校、駒場地区には中学校・高等学校、坂戸地区には総合学科の高等学校という6つの附属学校があり、特別支援学校においては、視覚障害教育部門、聴覚障害教育部門、肢体不自由教育部門、知的障害教育部門、自閉症教育部門の5つの附属学校があります。日本のみならず、世界においても、このように多様な附属学校を擁して日々教育研究に励んでいる大学は存在しないと思います。

国立大学の法人化以降、各大学はその存在意義を確立して、教育研究の成果を社会に発信し、問うていくことが求められています。これまで、本学の各附属学校も、それぞれの立場で研究発表会や授業研究会を開催し、出版物を発行する等、その成果の発信に努めて参りました。

しかし、未来に向けてさらなる発展を望むためには、筑波大学の多種多様な個性溢れる附属学校を、改めて「コンステレイション」（星座のような集合体）として捉え直し、各学校同士、大学と各学校との、あるいはまた社会との連携を深めることによって、さらに大きな価値を創造していくことが必要です。また、そのような連携と新たな試みが筑波大学の特色ある先導性を示すことに繋がるのではないかと思います。そして、その成果をとりまとめて発信していくことが何よりも重要であると考えます。

このたび、附属学校教育局は、各附属学校の取り組みを初めて「データ集」としてまとめました。初めての試みです。これからの時代、学校教育現場は積極的に情報を発信し、社会に広く理解を求めなければなりません。そのためには情報を収集し、編集し、表現し、伝えていくことが必要不可欠であると考えます。是非、このデータ集にお目通しいただき、附属学校の新たな存在意義、役割を考える上で参考に供していただければこれ以上の幸せはありません。

平成23年3月31日

筑波大学附属学校教育局教育長

阿部生雄

1 大学と附属学校との連携に関する具体的方策

(1) 「附属学校教育局プロジェクト研究」への取組状況

プロジェクト研究とは、日本の教育現場で解決が迫られている今日的課題の解決に向けて、学校教育の実践的な研究を附属学校教育局の大学教員と附属学校教員とが協同して研究するものである。

平成22年度においては4つの研究テーマ（P1：学校で「気になる子ども」の支援に関する研究、P2：子どものコミュニケーション能力を育てる、P3：附属学校の「知」を活かした教師教育の創造、P4：国際的資質を育てる）について実施した。

【各年度におけるプロジェクト研究テーマ】

平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
		プロジェクト1-①	プロジェクト1-①	プロジェクト1-①	プロジェクト1
個別の教育支援計画の開発に関する研究	個別の教育支援計画の開発に関する研究	ライフスキルを高める心理学の授業	ライフスキルを高める心理学の授業	ライフスキルを高める心理学の授業	学校で「気になる子ども」の支援に関する研究
		プロジェクト1-②	プロジェクト1-②	プロジェクト1-②	プロジェクト2
児童生徒の心身の健康とそのサポート・システムの在り方の研究	児童生徒の心身の健康とそのサポート・システムの在り方の研究	パブリック・リテラシーの学習のあり方に関する基礎的研究	パブリック・リテラシーの学習のあり方に関する基礎的研究	パブリック・リテラシーの学習のあり方に関する基礎的研究	子どものコミュニケーション能力を育てる
		プロジェクト1-③	プロジェクト1-③	プロジェクト1-③	プロジェクト3
筑波大学及び附属学校における教育教職の在り方の研究	筑波大学及び附属学校における教育教職の在り方の研究	初等・中等教育における情報リテラシー・情報モラルの系統的な指導の在り方に関する研究	初等・中等教育における情報リテラシー・情報モラルの系統的な指導の在り方に関する研究	初等・中等教育における情報リテラシー・情報モラルの系統的な指導の在り方に関する研究	附属学校の「知」を活かした教師教育の創造
		プロジェクト2	プロジェクト2	プロジェクト2	プロジェクト4
共に創る交流教育の研究	共に創る交流教育の研究	ICTツールを用いた教材開発、授業手法の改善に関する研究	附属学校の「知」を活かした教師教育の創造	附属学校の「知」を活かした教師教育の創造	国際的資質を育てる
		プロジェクト3	プロジェクト3	プロジェクト3	
	ICTツールを用いた教材開発、授業手法の改善に関する研究	附属学校の「知」を活かした教師教育の創造	交流・共同学習	交流・共同学習	
		プロジェクト4	プロジェクト4	プロジェクト4	
	高大連携によるキャリア教育の在り方に関する研究	高大連携によるキャリア教育の在り方に関する研究	高大連携によるキャリア教育の在り方に関する研究	高大連携によるキャリア教育の在り方に関する研究	

※平成17年度及び平成18年度においては、プロジェクト研究の番号を付していなかった。

(2) 「大学が開設する教職科目等への附属学校教員の協力」の実施状況

本学附属学校の教員は、本学大学院や学群の学生に対して様々な授業（教職科目、リメディアル教育、障害科学等）を非常勤講師として行っている。 (平成22年度)

科目名	対象研究科学群学類	曜時限	講師担当学校名 及び講師人数	備考
教育・研究指導Ⅱ(教師論)	大学院共通	2学期集中	附属中学校・1名	生命環境科学研究科
			附属視覚特別支援学校・1名	
			附属高等学校・1名	
			附属久里浜特別支援学校・1名	
社会科公民指導法	全学群	3学期集中	附属中学校・1名	教職科目
数学授業研究	全学群	2学期	附属中学校・1名	教職科目
生徒指導・教育相談	全学群	1学期	附属中学校・1名	教職科目
生徒指導・教育相談	全学群	2・3学期	附属中学校・1名	教職科目
生物生産材料学及び実習	生物環境学群	集中	附属中学校・1名	生命環境学群
地理歴史科(歴史)指導法	全学群	2学期	附属高等学校・1名	教職科目
公民科(倫理)指導法	全学群	3学期集中	附属高等学校・1名	教職科目
情報科指導法Ⅰ	全学群	2学期	附属高等学校・1名	教職科目
数学科指導法	全学群	1学期	附属高等学校・1名	教職科目
リメディアル教育(生物)	全学群	集中	附属高等学校・1名	リメディアル教育
リメディアル教育(数学)	全学群	集中	附属高等学校・1名	リメディアル教育
国語科教材研究	全学群	集中	附属駒場中高等学校・1名	教職科目
リメディアル教育(生物)	全学群	集中	附属駒場中高等学校・1名	リメディアル教育
リメディアル教育(数学)	全学群	集中	附属駒場中高等学校・3名	リメディアル教育
農業科教育法概論	全学群	1・2学期集中	附属坂戸高等学校・1名	教職科目
農業科指導法	全学群	2・3学期集中	附属坂戸高等学校・1名	教職科目
職業指導	全学群	1～3学期集中	附属坂戸高等学校・1名	教職科目
教育内容・方法論Ⅱ	全学群	1学期集中	附属坂戸高等学校・1名	教職科目
ティクニカルライティング	生物資源学類	1～3学期	附属坂戸高等学校・1名	総合科目
リメディアル教育(英語)	生物環境学群	集中	附属坂戸高等学校・1名	リメディアル教育
視覚障害自立活動	障害科学類	集中	附属視覚特別支援学校・1名	障害科学類
視覚障害教科指導法	障害科学類	集中	附属視覚特別支援学校・5名	障害科学類
視覚障害児の指導法	障害科学類	集中	附属視覚特別支援学校・1名	障害科学類
聴覚障害児の教育と指導法	障害科学類	集中	附属聴覚特別支援学校・2名	障害科学類
手話と聴覚障害者	障害科学類	集中	附属聴覚特別支援学校・2名	障害科学類
聴覚障害自立活動特講	障害科学類	集中	附属聴覚特別支援学校・2名	障害科学類
知的障害学校教育論	障害科学類	集中	附属大塚特別支援学校・1名	障害科学類
運動障害教育学	障害科学類	集中	附属桐が丘特別支援学校・1名	障害科学類
運動障害教育学	障害科学類	集中	附属桐が丘特別支援学校・2名	障害科学類
知的障害学校教育論	障害科学類	集中	附属久里浜特別支援学校・1名	障害科学類

(3) 「大学教員等による附属学校への出前授業等」の実施状況

大学教員又は大学院生が附属学校に出向いて授業等を行う「出前授業等」の実施や、附属学校の生徒が大学教員の研究室を訪問する「研究室体験」等を実施している。(平成22年度)

実施形態	学類(群)	学校名	タイトル	実施時間
出前講義	附属学校教育局	附属高校	恋愛の心理学	1時間
出前講義	附属学校教育局	附属高校	好意の伝え方	1時間
出前講義	附属学校教育局	附属高校	恋愛との付き合い方	1時間
体験授業	医	附属高校	麻酔科の実習	2～3時間
体験授業	応用理工	附属高校	化学実験体験	2～3時間
体験授業	教育	附属高校	起源まで溯って考える	2～3時間
体験授業	障害科学	附属高校	心身障害学・視覚障害と心理	2～3時間
体験授業	情報メディア創成	附属高校	コンピュータで音楽	2～3時間
体験授業	情報科学	附属高校	情報環境の近未来	2～3時間
体験授業	人文	附属高校	歴史教育	2～3時間
体験授業	人文	附属高校	『問題な日本語』	2～3時間
体験授業	数	附属高校	数学	2～3時間
出前講義	地球	附属高校	シンガポール	半日
体験授業	比文	附属高校	アメリカ文学	2～3時間
体験授業	比文	附属高校	9・11と真珠湾・黒人文学	2～3時間
出前講義	比文	附属高校	英語を使ったコミュニケーション	半日
体験授業	物理	附属高校	走査型電子顕微鏡での観察	2～3時間
体験授業	物理	附属高校	ブラックホール	2～3時間
体験授業	社会工学	附属高校	システム情報工学実習	2～3時間
研究室体験	医学	附属駒場中学校	悪性腫瘍の最終診断はどのように行われるか	2～3時間
研究室体験	医学	附属駒場中学校	遺伝子改変マウス作製の実際	2～3時間
研究室体験	医学	附属駒場中学校	肝疾患モデルの開発	2～3時間
研究室体験	医学	附属駒場中学校	日本の医療制度と医療費の現状や課題を考えよう	2～3時間
研究室体験	化学	附属駒場中学校	天然に学ぶ化学	2～3時間
研究室体験	数学	附属駒場中学校	コペルニクス革命	2～3時間
研究室体験	化学	附属駒場中学校	相転移の不思議	2～3時間
研究室体験	物理	附属駒場中学校	ミクロな視点からの科学—ポテトチップスの味と電子スピン—	2～3時間
研究室体験	応用理工	附属駒場中学校	未来のエネルギー源プラズマ核融合の話	2～3時間
研究室体験	工学システム	附属駒場中学校	体で感じるバーチャルリアリティ	2～3時間
研究室体験	社会工学	附属駒場中学校	選挙と「浜辺のアイスクリーム売り」	2～3時間
研究室体験	情報科学	附属駒場中学校	自動車の運転支援のデザインと評価	2～3時間
研究室体験	社会	附属駒場中学校	裁判員制度を体感しよう	2～3時間
研究室体験	日本語・日本文化	附属駒場中学校	文学部系の学問とは—英文学を中心に—	2～3時間
研究室体験	社会	附属駒場中学校	今日の友だち関係について議論しよう	2～3時間
研究室体験	情報科学	附属駒場中学校	リアルタイム分析を支援するデータストリーム処理	2～3時間
研究室体験	情報メディア創成	附属駒場中学校	ヒューマンインタラクションシステム	2～3時間
研究室体験	生物	附属駒場中学校	顕微鏡で生物を覗くこととは？	2～3時間
研究室体験	生物	附属駒場中学校	ムシを使った研究からヒトを理解する	2～3時間

研究室体験	生物	附属駒場中学校	生体構成分子を見てみよう	2～3時間
研究室体験	生物	附属駒場中学校	生物の多様性から読み解く歴史	2～3時間
研究室体験	生物	附属駒場中学校	イモリはiPSを越えるか？	2～3時間
研究室体験	生物資源	附属駒場中学校	作物は人間とともに誕生し進化してきた	2～3時間
研究室体験	生物資源	附属駒場中学校	微生物って面白い！	2～3時間
研究室体験	生物資源	附属駒場中学校	細胞の生と死のふしぎ	2～3時間
研究室体験	生物資源	附属駒場中学校	感覚のしくみ	2～3時間
研究室体験	生物資源	附属駒場中学校	走査型電子顕微鏡による観察	2～3時間
研究室体験	芸術	附属駒場中学校	建築家の考えること	2～3時間
研究室体験	芸術	附属駒場中学校	創作の秘密	2～3時間
研究室体験	人文	附属駒場高校	ことばと向き合う	半日
研究室体験	応用理工	附属駒場高校	身近な物・現象を科学の目で見ると	半日
研究室体験	化学	附属駒場高校	色が変わる金属錯体	1日
研究室体験	国際総合	附属駒場高校	ヨーロッパ国際関係入門	半日
研究室体験	国際総合	附属駒場高校	日本の政治と市民社会を世界13カ国との比較の中で考える	半日
研究室体験	社会	附属駒場高校	クレジット・デフォルト・スワップ(CDS)について学ぶ	半日
研究室体験	社会	附属駒場高校	教育格差・身体・文化の比較社会学	半日
研究室体験	数学	附属駒場高校	微分学のRenaissance	1日
研究室体験	生物	附属駒場高校	細胞内の生命活動を緑色蛍光タンパク質を使って観察しよう	1日
研究室体験	生物	附属駒場高校	生きるために必要な細胞の死	半日
研究室体験	生物資源	附属駒場高校	生物の不思議『なんでだろう？を化学する』	1日
研究室体験	生物資源	附属駒場高校	酸素を利用した有機物質の生産技術	1日
研究室体験	生物資源	附属駒場高校	人類と地球を救う微生物	1日
研究室体験	生物資源	附属駒場高校	寿命科学—1mmの生物が明らかにする寿命調節メカニズム—	1日
研究室体験	生物資源	附属駒場高校	菌類の多様性：その不思議な生活	1日
研究室体験	比較文化	附属駒場高校	英文学の最前線	1日
研究室体験	物理	附属駒場高校	加速器科学入門	1日
研究室体験	物理	附属駒場高校	スピン科学—物理学の基礎から学際領域研究まで—	1日
研究室体験	社会工学	附属駒場高校	実験を通して学ぶ社会の仕組み	1日
研究室体験	社会工学	附属駒場高校	金融資産取引の模擬体験	1日
研究室体験	社会工学	附属駒場高校	明日の東京大地震災—それまでとそれから—	1日
研究室体験	情報科学	附属駒場高校	情報セキュリティについて考える	1日
研究室体験	医学	附属駒場高校	耳鼻咽喉科・頭頸部外科の臨床と研究	半日
研究室体験	医学	附属駒場高校	肝臓の疾患モデル	半日
研究室体験	医学	附属駒場高校	遺伝子改変マウス作製の実際	1日
研究室体験	医学	附属駒場高校	マウスが拓くライフサイエンス	1日
研究室体験	医学	附属駒場高校	日本の医療制度と医療費の現状や課題を考えよう	半日
研究室体験	医学	附属駒場高校	薬物依存症の実態と治療	半日
研究室体験	芸術	附属駒場高校	建築的なアイデアとは何か	1日

研究室体験	情報メディア創成工学システム	附属駒場中高	コンピュータで音・音楽を扱う	1日
合宿実習	情報科学類	附属坂戸高校	ICT 合宿	4日
オリンピック教育講演会	人間総合科学研究科	附属坂戸高校	世界に広がる「一校一国運動」	1時間30分
出前授業	附属学校教育局	附属坂戸高校	ライフスキルを高める心理学の授業	4日
聴講・講評	医療科学	附属坂戸高校	「産業社会と人間」学問の素晴らしさ	半日
聴講・講評	教育学	附属坂戸高校	「産業社会と人間」学問の素晴らしさ	半日
聴講・講評	工学システム	附属坂戸高校	「産業社会と人間」学問の素晴らしさ	半日
出前講義	情報科学	附属坂戸高校	若手研究者による講義	1日
出前講義	情報科学	附属坂戸高校	先端の科学技術と学問について	半日
出前講義	生物学類	附属坂戸高校	PCR による GM 食品検知実験	4時間
合宿実習	生物資源	附属坂戸高校	ハヶ岳演習林実習	3日
合宿実習	生物資源	附属坂戸高校	農林技術センター実習	2日
卒業研究指導	生物資源	附属坂戸高校	卒業研究の指導ならびに共同研究	4日
聴講・講評	生物資源	附属坂戸高校	「産業社会と人間」学問の素晴らしさ	半日
出前講義	生物資源	附属坂戸高校	特別講義	2時間
出前講義	附属学校教育局	附属視覚	キャリアを考える	1時間
出前講義	附属学校教育局	附属視覚	自己を見つめて	2時間
集中講義	医学	附属視覚	解剖学	128時間
出前講義	附属学校教育局	附属聴覚	いじめに関する講習会	1時間
出前講義	附属学校教育局	附属聴覚	キャリア教育	半日
出前講義	人間総合科学研究	附属聴覚	発達障害児の実際と指導	1～2時間
出前講義	人間総合科学研究	附属聴覚	聴覚障害教育の課題と展望	1～2時間
出前講義	附属学校教育局	附属聴覚	ライフスキルを高める心理学の授業	1～2時間

(4) 教育実習等の受入状況

教育実習は従来より附属学校の重要な役割であり、多くの実習生を受け入れている。また、平成10年度の入学者から介護等体験の受入も行っている。

教育実習生受入一覧（筑波大学生）

教育実習校	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
附属小学校	2	2	2	2	2
附属中学校	53	47	42	45	30
附属高等学校	63	56	63	60	47
附属駒場中・高等学校	90	59	60	48	35
附属坂戸高等学校	68	54	54	62	41
附属視覚特別支援学校	3	4	5	8	3
附属聴覚特別支援学校	3	2	2	4	2
附属大塚特別支援学校	0	2	2	2	0
附属桐が丘特別支援学校	8	5	8	6	3
附属久里浜特別支援学校	0	2	1	1	0
附属学校計（受講者数）	290	231	240	238	163
協力校（受講者数）	204	182	187	203	193
出身校（申込者数）	222	220	190	204	171
合計	716	633	617	645	527

教育実習生受入一覧（他大学生）

教育実習校	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
附属小学校	0	0	2	0	1
附属中学校	9	9	5	5	6
附属高等学校	10	7	8	1	4
附属駒場中・高等学校	3	2	2	4	1
附属坂戸高等学校	8	12	10	15	12
附属視覚特別支援学校	3	4	2	4	4
附属聴覚特別支援学校	6	2	3	6	4
附属大塚特別支援学校	5	5	0	9	4
附属桐が丘特別支援学校	0	0	1	1	1
附属久里浜特別支援学校	0	0	0	0	2
合 計	44	41	39	45	39

教育実習期間

教育実習校	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
附属小学校 (養護)	10/16～11/2	10/15～11/2	10/14～10/31	10/20～11/10	10/15～11/5
附属中学校 (一期)	5/15～6/2	5/14～6/1	5/19～6/7	5/18～6/6	5/17～6/5
(養護)	10/16～11/2	10/17～11/6	9/19～10/9	9/18～10/9	9/27～10/15
附属高等学校 (一期)	5/15～6/3	5/14～6/2	5/19～6/7	5/18～6/6	5/17～6/5
(二期)	9/4～9/22	9/1～9/21	9/1～9/22	9/1～9/25	9/1～9/22
(養護)	10/16～11/2	10/17～11/6	10/16～11/5	9/1～9/25	9/1～9/22
附属駒場中・高等学校 (一期)	5/22～6/9	5/28～6/15	5/26～6/13	5/25～6/12	5/24～6/11
(二期)	9/4～9/22	9/3～9/21	9/1～9/19	9/1～9/18	9/1～9/22
(養護)	10/16～11/2	10/15～11/2	9/1～9/19	9/1～9/18	9/1～9/22
附属坂戸高等学校 (一期)	5/8～5/26	5/7～5/25	5/7～5/27	5/7～5/27	5/6～5/26
(二期)	9/4～9/25	9/4～9/25	9/2～9/22	9/1～9/21	9/2～9/21
(養護)	10/16～11/2	10/15～11/2	9/2～9/22	9/1～9/21	9/2～9/21
附属視覚特別支援学校 (一期)	5/15～6/2	5/14～6/1	5/12～5/30	5/11～5/29	5/10～5/28
(養護)		10/15～11/2	10/6～ 10/24,11/1	10/5～10/23	
附属聴覚特別支援学校 (一期)	6/5～6/23	10/15～11/2		6/4～6/24	6/7～6/25
(二期)				10/5～ 10/23,10/1	
(養護)	10/16～11/2		10/6～ 10/24,10/1	10/5～ 10/23,10/1	
附属大塚特別支援学校 (養護)		10/15～11/2	10/6～10/24	10/5～10/23	10/4～10/22
附属桐が丘特別支援学校 (一期)	5/22～6/9	5/21～6/8	5/26～6/13	5/25～6/12	5/25～6/12
(養護)		10/15～11/2	10/3～10/24	10/2～10/23	
附属久里浜特別支援学校 (養護)		10/9～10/29	10/14～11/4	10/5～10/26	

介護等体験申込者一覧（筑波大学生）

教育実習校	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
附属視覚特別支援学校	142	54	193	67	157
附属聴覚特別支援学校	66	68	66	55	55
附属大塚特別支援学校	113	109	90	86	91

附属桐が丘特別支援学校	176	241	136	195	144
附属久里浜特別支援学校	30	25	28	16	27
附属学校計	527	497	513	419	474
社会福祉施設	498	521	438	420	439
合計	1,025	1,018	951	839	913

介護等体験申込者一覧（他大学の学生）

教育実習校	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
附属視覚特別支援学校	96	105	99	105	99
附属聴覚特別支援学校	30	10	21	22	11
附属大塚特別支援学校	0	0	10	10	15
附属桐が丘特別支援学校	0	0	232	0	165
附属久里浜特別支援学校	38	40	40	40	40
合計	164	155	402	177	330

特別支援実習生受入一覧（筑波大学生）

教育実習校	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
附属視覚特別支援学校	4	4	2	5	4
附属聴覚特別支援学校	10	12	5	6	4
附属大塚特別支援学校	24	16	19	17	14
附属桐が丘特別支援学校	7	8	5	8	3
附属久里浜特別支援学校	5	3	3	5	4
合計	50	43	34	41	29

特別支援実習生受入一覧（他大学の学生）

教育実習校	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
附属視覚特別支援学校	0	0	0	0	0
附属聴覚特別支援学校	0	0	0	2	0
附属大塚特別支援学校	0	0	9	8	3
附属桐が丘特別支援学校	0	0	0	1	1
附属久里浜特別支援学校	0	0	0	0	2
合計	0	0	9	11	6

特別支援実習期間

教育実習校	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
附属視覚特別支援学校	10/2～10/20	10/9～10/26	10/6～10/24	10/5～10/23	10/4～10/22
		11/3又は11/4	1/11	10/3	10/30又は10/31
附属聴覚特別支援学校	6/5～6/23	10/1～10/19	10/6～10/24	10/5～10/23	10/4～10/22
		11/3	10/1	10/1	10/1
附属大塚特別支援学校	10/2～10/20	10/9～10/26	10/6～10/24	10/5～10/23	10/4～10/22
		10/21		10/18	10/17
			1/13～1/30	1/12～1/29	1/11～1/28
	1/9～1/26	1/11～2/1	10/6	10/5	10/4
附属桐が丘特別支援学校	9/29～10/20	9/28～10/19	10/3～10/24	10/2～10/23	10/1～10/22
					10/2
附属久里浜特別支援学校	9/7～9/28	10/9～10/29	10/14～11/4	10/5～10/26	10/12～11/1

(5) 「科学の芽」賞の実施状況

筑波大学では、本学の前身の東京教育大学の学長を務めるなど、本学にゆかりのある朝永振一郎博士の功績を称え、それを後続の若い世代に伝えていくために、小・中・高校生を対象に自然や科学への関心と芽を育てることを目的としてコンクールを実施しており、大学教員と附属学校教員が連携し企画・運営している。

【部門別応募状況】

区 分	第1回 (平成18年度)	第2回 (平成19年度)	第3回 (平成20年度)	第4回 (平成21年度)	第5回 (平成22年度)
小学生部門	281	411	682	596	588
中学生部門	328	416	519	530	737
高校生部門	36	19	47	32	50
合 計	645	846	1,248	1,158	1,375

【全国地区別応募状況】

○小学生部門

区 分	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
北海道	0	0	0	0	0
東北	42	5	4	5	1
関東・甲信越	204	145	233	217	144
中部・東海	3	7	4	1	7
近畿	1	240	358	350	345
中国	1	3	3	5	11
四国	29	4	0	1	0
九州・沖縄	1	4	8	1	5
外国	0	3	72	16	75
合 計	281	411	682	596	588

○中学生部門

区 分	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
北海道	0	0	0	7	10
東北	3	16	24	2	3
関東・甲信越	210	283	222	176	209
中部・東海	9	8	29	6	104
近畿	105	101	186	198	295
中国	0	0	1	3	1
四国	1	0	2	0	1
九州・沖縄	0	3	29	80	75
外国	0	5	26	58	39
合 計	328	416	519	530	737

○高校生部門

区 分	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
北海道	0	0	0	0	1
東北	1	1	8	0	4
関東・甲信越	21	13	15	17	19
中部・東海	0	1	9	4	7

近畿	6	1	9	7	3
中国	4	0	3	2	6
四国	1	0	0	0	2
九州・沖縄	3	3	3	2	8
外国	0	0	0	0	0
合 計	36	19	47	32	50

第5回「科学の芽」賞の審査結果（平成22年度）

部門	「科学の芽」賞		「科学の芽」奨励賞		「科学の芽」努力賞	
小学生部門	9件		11件		37件	
	個人	9	個人	11	個人	36
	団体	0	団体	0	団体	1
中学生部門	9件		11件		31件	
	個人	8	個人	10	個人	29
	団体	1	団体	1	団体	2
高校生部門	3件		4件		9件	
	個人	1	個人	0	個人	3
	団体	2	団体	4	団体	6
合 計	21件		26件		77件	
	個人	18	個人	21	個人	68
	団体	3	団体	5	団体	9

※その他、自然や科学への関心と芽を育む教育活動に取り組まれた学校（第5回は海外の日本人学校を含め12校）に「科学の芽」学校奨励賞を授与。

(6) 「オリンピック教育」への取組状況

大学教員と附属学校教員が連携して、国際平和教育としてのオリンピック教育を附属学校において展開することとしており、平成22年度においては、下記のとおり講演や授業を実施した。

オリンピック教育とは、国際オリンピック委員会（IOC）が掲げるオリimpiズムの理念と、それが展開しているオリンピック・ムーブメントと連携して、国際平和と若者の教育に活用しようとする教育である。

附属中学校	「オリンピックと国際平和を考える」と題して広島市長による講演を行った。
附属高等学校	保健体育の授業科目「体育理論」において大学教員による5回の授業「オリンピック競技大会とは」を実施した。
附属坂戸高等学校	大学教員による講演を実施した。（世界に広がる一校一国運動の実践として JOC とパートナーシップを結ぶウクライナの学生を招いて講演を行った。）

【オリimpiズム、オリンピック・ムーブメント】

オリンピック憲章によればオリimpiズムとは、「肉体、意志と精神の全てにわたる資質を高め、調和をもたらそうとする人生の哲学」であり、その目標は「人間の尊厳を保つ平和な社会を作り上げるよう奨励することにより、至る所でスポーツを人間の調和的発達に役立つようにすることである」とされる。オリンピック・ムーブメントの目標は、「友情、連帯とフェアプレーの精神による相互理解を促進するオリimpiック精神」で行われるスポーツと若者の教育を通じて「平和で、よりよき世界を建設することに寄与する」ことに置かれる。（オリンピック憲章 1999年版）

2010年8月に初めて開催されたユースオリimpiック大会では「オリimpiック・バリューズ」として「卓越（Excellence）、「友情」（Friendship）、「尊敬」（Respect）が掲げられている。

2 初等中等教育の教育拠点形成に関する具体的方策

(1) 3つの拠点構想に関する取組状況

平成20年度において、附属学校教育局は、①先導的教育拠点 ②教師教育拠点 ③国際教育拠点の3つの拠点構想を本学附属学校の将来構想の基本方針と位置づけた。

平成22年度においては、下記のとおり3つの拠点の観点から附属学校教育局の取組を整理し、具体的施策を推進した。

① 先導的教育拠点
小・中・高一貫カリキュラム開発の研究
高大連携（接続）の研究
研究発表会の組織化
附属学校教育局プロジェクト研究（P1：学校で「気になるこども」の支援に関する研究）
附属学校教育局プロジェクト研究（P2：子どものコミュニケーション能力を育てる）
教育相談・支援体制の研究
超早期段階における知的・重複・発達障害児に対する先駆的な教育研究モデル事業
「科学の芽」賞

② 教師教育拠点
教員免許状更新講習
現職教員研修（初任者研修、10年経験者研修）
普通附属と特別支援学校の連携等
特別支援学校教員資格認定試験
教育実習
附属学校教育局プロジェクト研究（P3：附属学校の「知」を活かした教師教育の創造—教師教育のカリキュラム開発と授業モデルの構築—）

③ 国際教育拠点
教員の海外交流
生徒の短期留学等
海外教師教育
国際交流協定
附属学校教育局プロジェクト研究（P4：国際的資質を育てる）
オリンピック教育

(2) 全国規模の研究発表会等の実施状況

本学附属学校では日頃の教育実践や実験的な試みについて、その成果を発信するため、全国の教員を対象とした研究大会等を毎年開催している。

【平成22年度の実施状況】

	名 称	内 容	開 催 日	参加者数
附属小学校	学習公開・研究発表会	『『独創』の教育』—『『独創』の教育』の観点から、各教科領域の本質を探る	平成22年6月18日～19日	1,381
	学習公開・初等教育研修会	各教科・領域の公開授業を通して、これからの教育のあり方について提案し、それをもとに協議会を開催した。	平成23年2月17日～18日	4,485
附属中学校	第38回 研究協議会	全体会講演：「新教育課程における学習のあり方」、各教科ごとにカリキュラム研究の成果を発表	平成22年11月13日	575
附属高等学校	第60回 教育研究大会	全体講演会「特別支援教育と『発達障害』—高等学校・大学への波及—」上野一彦氏（東京学芸大学名誉教授・大学入試センター特任教授） 公開授業を行い、その後、教科ごとに次のような内容について発表し協議会をもった。 ○国語：授業のヒント ○地歴公民：生徒による表現活動 ○数学：数学的活動の指導法の研究 ○外国語：公開授業の検討会 ○理科：新学習指導要領の先行実施にむけて ○保健体育：体育実技における初心者の指導について ○美術：題材と造形素材 ○家庭：新学習指導要領に向けて	平成22年12月4日	354
附属駒場中学校・高等学校	第37回 教育研究会	研究主題「教え合い、学び合う学習活動の構築をめざして」 ○公開授業Ⅰ 中世の農民をどうとらえるか（中学社会） 中学生物・高校化学との関連を意識した有機化学の指導（中学理科） 「疑問詞+to不定詞」の導入（中学英語） ○公開授業Ⅱ 今はどこからきたのか—アキハバラ事件から考える—（高校公民） パターン形成を操る遺伝子（高校理科） 知識から訓練へ（高校英語） ○研究協議会 （社会）「アキハバラ事件」と現代を考える意見交換 （理科）「中高一貫SSHの完成に向け中学に重点を置いたカリキュラム・教材の開発」 （英語）「国際社会で発信する能力の育成」 ○講演会 「サイエンスコミュニケーション能力を育成することは可能か」石浦章一氏（東京大学）	平成22年11月27日	202
	2010年度SSH数学科教員研修会	「生徒の知的な興味関心を刺激し数学的思考力を育成する具体的教材の報告と協議」 ○絶対値とガウス記号を含む関数のソフトウェアによるグラフ描写 ○教材開発と授業で心掛けること—概念中心の基礎・基本とは何か— ○講演会「科学技術立国とは何か—数学教育と学問を敬愛する心の育成—」長岡亮介氏（明治大学）	平成22年12月5日	127

<p>附属坂戸高等学校</p>	<p>第14回 総合学科研究大会</p>	<p>キャリア教育と新教育課程への展望 ○授業公開 「理科総合A (物理)」「体育」「英語 I」「家庭基礎」「環境創造」「工学情報基礎」「ビジネス・スキル」 ○実践報告 ・「産業社会と人間」「産業理解」 ・「起業基礎」 ・「卒業研究」 ○分科会 ・学校開設 ・システム ・新教育課程 ・キャリア教育 ・特別支援教育</p>	<p>平成23年 2月25日</p>	<p>114</p>
<p>附属視覚特別支援学校</p>	<p>理療教育研究セミナー</p>	<p>理療科におけるキャリア教育 ～生徒のやる気を引き出し就職につなげるために～</p>	<p>平成22年10月 8日</p>	<p>18</p>
<p>附属視覚特別支援学校</p>	<p>第8回 視覚障害教育研究協議会</p>	<p>以下の16のテーマにそって授業公開および各分科会で報告・協議 ○視覚に障害のある乳幼児の視覚活用について ○小学部における教科学習のための教材と指導法について その2 ○視覚障害に配慮した重複障害児の教育実践 一人との関わりを豊かに— ○単元の導入段階において必要な算数・数学的イメージ 関数の導入で必要な概念や感覚を中心に— ○点字で学ぶために必要な技能 その1 ○国語における読みと書きの指導 ○社会科における具体的なイメージを育てる指導 その3 実物教材をどう指導するか— ○実験・観察の工夫 ○学校における球技指導 フロアバレーボール その2— ○ものづくり (技術編) 音のでるもの— ○音楽における個別指導の観点 ○理解しやすい英語教科書のレイアウトについて 一点字教科書を中心に— ○信号機のある交差点の歩行について ○理療科におけるキャリア教育 ○視覚障害者のためのリングの皮むき 一寄宿舎における一考察— ○盲学校がにおける盲ろう教育について 一卒業後の進路と生活を考える—</p>	<p>平成23年 2月19日～20日</p>	<p>197</p>
<p>附属聴覚特別支援学校</p>	<p>筑波大学連携研究報告会 (学系と附属聴覚特別支援学校)</p>	<p>【口頭発表：6件】 ○聴覚障害幼児におけるカテゴリー化の発達の变化に関する研究～色・形・大きさを指標として～ ○聴覚障害児の就学先決定に関する調査～保護者への質問紙調査を中心として～ ○聴覚障害児におけるオノマトペの印象に関する研究 ○重度聴覚障害児における特殊音表記の習得とそれに関する心理学的特性 ○特別支援学校 (聴覚障害) の英語指導における困難点と指導上の工夫 ○読解学習場面における聴覚障害児の理解過程に関する研究～グループ学習における教師の働きかけとの関連から～</p>	<p>平成23年 3月17日 (震災のため中止)</p>	<p>30</p>

		【紙上発表：3件】 ○聴覚障害特別支援学校における指導の実際～小学部2年生に対する国語の授業を通して～ ○聴覚障害幼児への言語指導～「話し合い」活動を通して～ ○聴覚障害幼児における他者との相互作用の発達の特徴に関する研究		
附属大塚特別支援学校	第46回 知的障害教育研究協議会	研究協議会テーマ「これからの知障害教育—学習内容表と個別教育計画を活用した授業づくり—」 ○各部 公開授業 ○研究全体会 ○各部分科会 ○講演会「これからの知的障害教育とカリキュラム」	平成23年2月18日	240
附属桐が丘特別支援学校	第39回 肢体不自由教育研究協議会	研究主題 肢体不自由教育の専門性に基づく指導と支援の充実～当該学年の学習が難しい子どもに対する教科指導の実践～ ○第1分科会 障害特性や習得度にばらつきがある学習集団に対する効果的な指導 ○第2分科会 視点を切り替えて考えることが苦手な子どもに対する指導 ○第3分科会 立体を捕らえることや表現することが難しい子どもに対する指導 ○全校授業公開（3日 1、2校時） ○教員研究ポスター発表、教材教具展示	平成23年2月3日、4日	82
附属久里浜特別支援学校	平成22年度自閉症教育実践研究協議会	研究主題「自閉症のための教育課程の研究開発Ⅲ」—学校における指導の成果を、家庭生活や社会生活に広げるための幼稚部・小学部一貫した教育課程の編成・実施の在り方に関する研究— ○全体発表「本年度の研究の取組について」 ○ポスター発表、他 ○講演 ○分科会「授業づくり分科会」「家庭生活支援分科会」各事例発表	平成23年2月9日、10日	400
附属学校教育局	平成22年度筑波大学附属学校研究発表会	研究主題「子どもが変わる・教師が変わる・学校が変わる」～附属学校における3つの教育拠点構想の実現に向けて～ ○プロジェクト研究報告 ・先導的教育プロジェクト「学校で『気になる子ども』の支援に関する研究」 ・教師教育プロジェクト「附属学校の『知』を活かした教師教育の創造」 ○シンポジウム「幼稚園・小学校・中学校・高校までの一貫教育～シカゴでの学校視察からの提案」	平成23年2月26日	126
合 計				8,331

(3) 教育方法・カリキュラム等のモデル開発及び成果の発信状況

本学附属学校においては、筑波大学又は附属学校独自の教育モデルの開発や文部科学省をはじめ各種団体の研究指定事業等に取り組んでいる。

〔①筑波大学又は附属学校の独自の取組〕

	名 称	期 間	成果の発信状況
附属小学校 附属中学校 附属高等学校	小・中・高と大学の連携に基づく先導的実験～カリキュラム開発と実践プログラム	平成16～ 21年度	小・中・高・大学の教員が各教科ごとに小中高一貫カリキュラムの開発研究に取り組み、教科によっては小中高合同授業や、雑誌などでの発表を行った。また、「四校研活動報告（平成16～21年度）－筑波大学大塚プランをめざして－」として報告書を作成した。
附属視覚特別支援学校	○視覚と聴覚の両方に障害を有する「盲ろう」生徒に対する指導カリキュラム開発 ○視覚障害生徒のための自然観察プログラムの開発	平成17年度	○各教科における系統的な指導内容の精選 ・コミュニケーションツールの開発 ・授業場面においてのパソコンの活用 ○国立那須甲子少年自然の家との連携事業として、野外観察プログラムの開発を行い、本校研究協議会分科会時に報告した。
附属聴覚特別支援学校	【各学部】新学習指導要領にともなう教育課程の開発	平成16～ 22年度	毎年の関東地区聾教育研究会「聾教育実践研修会」及び「聴覚障害教育担当教員講習会」にて報告した。
大学・特別支援教育センター・障害5附属学校（大塚特別支援学校を事業実行場所とする）	超早期段階における知的・重複・発達障害児に対する先駆的な教育研究モデル事業	平成22～ 24年度	知的・重複・発達障害児の早期発見・早期診断を行い、教育・指導方法のモデルとなる実践研究を展開し、効果的な指導の計画・方法並びに家庭や関係諸機関との円滑な連携について、「個別的教育支援計画」等に基づく超早期教育支援システムを構築し、その成果を全国に発信する。平成22年度報告書を作成した。

〔②文部科学省等による研究指定等による取組〕

	名 称	期 間	成果の発信状況
附属高等学校	【事業名称】教育課程研究指定 【事業主体】国立教育政策研究所教育課程研究センター	平成21～ 22年度	数学的活動を伴った学習指導案を9種類作成した。それぞれの学校の状況に応じてアレンジし数学の授業を実践しやすいような学習指導案である。2年間の研究の内容は、文部科学省のホームページに掲載される予定である。また、2年間の研究成果や学習指導案は冊子としてまとめた。冊子は、附属高等学校の研究大会をはじめ、数学教育関係の学会で配布する予定である。
	【事業名称】サイエンス・パートナーシップ・プログラム（研究者招聘講座） 【事業主体】文部科学省	平成16年度	「21世紀のエネルギー水素」と題して、水素・酸素燃料電池の現状についての講演の後、燃料電池の製作実験、燃料電池の研究（東京ガス技術研究所）の見学を行った。講演・実験・見学のようすを本校のホームページに写真入りで掲載（現在は閲覧不可能）。
	【事業名称】サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト（講座型学習活動）プランA 【事業主体】独立行政法人科学技術振興機構	平成20年度 平成21年度	「感温性高分子を利用した最先端の機能材料に触れる」と題して、蛍光を発する温度センサーの作成を行った。講師には研究者の役割や生活についても講演をもらい、キャリア教育の一環とした。報告書を作成し、科学技術振興機構のホームページで公開した。 「ナノ・マイクロテクノロジーを用いた米のDNA診断」と題して、米からのDNA抽出、PCRによるDNAの増幅、ナノ粒子・アガロースゲル電気泳動・マイクロチップ電気泳動の3通りの方法によるDNAの診断実験を行い、日をあらためてグループごとにパワーポイントを使った発表会を行った。さらに研究者の日常を理解する意味で、東京大学で先生の講演を拝聴した後、大学の施設見学を行い、キャリア教育の一環とした。報告書を作成し、科学技術振興機構のホームページで公開した。

附属駒場中学校・高等学校	【事業名称】 スーパーサイエンスハイスクール 【事業主体】 文部科学省	第一期 平成14～ 18年度 第二期 平成19～ 23年度	SSH 研究開発を中心に、以下の通り波及活動を行った。 ○全教科・全生徒で取り組む SSH の実践例の波及を図った。 ○数学科では、毎年「創造的教材・指導法及びカリキュラムの開発」を発行するとともに、本校数学科教員が北海道・秋田県・佐賀県・宮崎県を訪問し、現地での普及を図った。 ○数学科で、平成20年度から毎年本校を会場として「数学教員研修会 in 筑駒」を開催し、全国50校以上の中高の数学教員に対し、本校で開発した教材の普及を図った。 ○理科では、平成17年3月に SSH 開発研究で開発した教材を「先駆的な科学者・技術者を育成するための理科実験」として発行した。同時に、本校を会場として「理科実験研修会」を開催し、全国の中高の理科教員に対し、本校で開発した実験教材の普及を図った。
	【事業名称】 子どものための優れた舞台芸術体験事業 【事業主体】 文化庁	平成22年度	附属駒場中学校において、他校でも無理なく実施できる学習プログラムの開発を念頭に置きワークショップ及び発表会を実施した。 ○オリエンテーションワークショップ ○平家物語をもとにしたシーンづくりワークショップ ○前回作ったシーンのブラッシュアップワークショップ ○発表会
附属坂戸高等学校	【事業名称】 研究開発学校 【事業主体】 文部科学省	平成12～ 14年度	○総合学科におけるガイダンス的な教科・科目の研究開発として、教科「産業理解」を開発し、総合学科研究大会にて発表した。平成14年3月に研究開発報告書(第2年次)を発刊した。(H14)
	【事業名称】 研究開発学校 【事業主体】 文部科学省	平成15～ 17年度	○「新しい総合学科の実践」というテーマで本校の教育課程の改革を全国総合学科研究大会にて発表した。(H16.2) ○大学との連携による起業・ベンチャー教育の開発を行い、全国総合学科研究大会にて発表すると共に、報告書を発行した。(H17.3) ○教科「産業」を構築し、全国総合学科研究大会にて発表した。(H18.2)
	【事業名称】 ICT 人材育成プロジェクト 【事業主体】 文部科学省	平成17～ 19年度	○筑波大学の出前講義を活用した専門教科「工業」、「情報」、「商業」の連携による複合科型開発科目「ICT 活用」(2単位)を開発し、報告書を発行。 ○筑波大学情報学類、工学システム学類との高大連携による筑波大学 IT 合宿において「ICT 実践 I～III」(各1単位)を開発し、報告書を発行。 ○「ICT 就業体験」(1単位)：IT 企業におけるインターンシップを活用した科目を開発し全国総合学科研究大会にて発表した。 ○総合学科における ICT 人材育成の報告書を発行した。(H20.3)
	【事業名称】 高等学校における発達障害支援モデル事業 【事業主体】 文部科学省	平成19～ 20年度	○全校的な組織体制を確立し、中間報告書、最終報告書「高等学校における発達障害支援モデル事業」を作成した。(H19、20年度) ○本校研究大会で取り組みについて報告をした。(H20、21年度) ○筑波大学教員免許状更新講習にて取り組み内容をもとにした講義を行った。(H21、22年度) ○筑波大学公開講座にて、取り組み内容に関する発表を行った。(H21、22年度) ○学会発表を行った。(日本 SNE 学会 H19、20年度) ○取り組みについて学会誌に掲載した(日本発達障害学会 H21年度) ○書籍の中で取り組みについて紹介した(H22年度)

	<p>【事業名称】 エネルギー教育実践校 【事業主体】 エネルギー教育情報センター（経済産業省資源エネルギー庁）</p>	平成14～ 16年度	<p>第6回総合学科研究大会（平成14年度）において報告した。研究紀要第41集「エネルギー環境教育の取り組み」、第42集「エネルギー教育実践校3年間の取り組み」 担当した教員が関連する学会で報告を行った。（エネルギー環境教育学会、環境教育学会等）</p>
	<p>【事業名称】 サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト（講座型学習活動）プランB 【事業主体】 独立行政法人科学技術振興機構</p>	平成19～ 21年度	<p>（独）森林総合研究所多摩森林科学園と「森林に関する環境教育プログラム」について共同研究を行い、その成果を研究紀要第45集「平成19年度 SPP 実践報告」としてまとめた。 （独）森林総合研究所多摩森林科学園と連携し、赤沼実験林、高尾山、多摩森林科学園において森林体験プログラムを実施し、その成果を研究紀要第46集「平成20年度 SPP 実践報告」としてまとめた。 筑波大学、女子栄養大学、森林総合研究所、NPO法人共存の森ネットワーク、IT関連企業アビリティと連携し、本校の4つの系列すべてにおいてSPPを実践した。取り組みの成果については、本校総合学科研究大会や関連する学会（森林学会等）で報告するとともに、第47集「平成21年度 SPP 実践報告」としてまとめた。</p>
	<p>【事業名称】 サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト（講座型学習活動）プランA 【事業主体】 独立行政法人科学技術振興機構</p>	平成22年度	<p>【人文社会・コミュニケーション系列選択生徒のための統計学特別講座】 環境問題と関係するテーマを選んだ生徒9名が筑波大学で行われた国際農学ESDシンポジウムのポスターセッション部門に参加した。 【工学システム・情報科学系列選択生徒のための「情報科学分野におけるICTの理解とプログラミング能力の育成」講座】 IT関連企業における就業体験の実施や筑波大学情報学群情報科学類のICT合宿への参加を行い、その成果について総合学科研究大会において発表した。</p>
	<p>【事業名称】 「国際協力イニシアティブ」教育協力拠点形成事業 【事業主体】 文部科学省</p>	平成20年度	<p>筑波大学農林技術センター、インドネシアボゴール農科大学、附属コルニタ高等学校、本校の4者が連携し、インドネシアにおいてエネルギー環境教育授業を実施した。その成果について、「国際農学ESDシンポジウム2009」で報告した。また、「総合学科の知見を生かした農学ESDの実践と深化」について、総合学科研究大会において研究成果を報告し、関係の参加者に報告書を配布した。（H20.3）</p>
	<p>【事業名称】 金融経済教育研究指定校 【事業主体】 全国銀行協会</p>	平成22年度	<p>全国銀行協会作成補助教材が総合学科高校における記入・経済・消費者学習にどのような効果があるかを公民科「現代社会」と家庭科選択科目「人間科学」において研究実践し、その成果を第14回総合学科研究大会（本校実施）にて特設コーナーで発表した。</p>
	<p>【事業名称】 法教育実践研究校 【事業主体】 社団法人商事法務研究会</p>	平成21～ 23年度	<p>法意識に関する高校生対象のワークシートの研究や、実務者（弁護士）や研究者（大学教授等）との連携による実験授業を実施した。</p>
附属視覚特別支援学校	<p>【事業名称】 サイエンス・パートナーシップ・プログラム（講師招聘講座） 【事業主体】 文部科学省</p>	平成16年度	<p>中学部1年対象に「動物の形態と生活様式～サルの生態」、中学部2年対象に「魚類の形態と機能～マグロの体系と生態」、中学部3年対象に「森林と環境」の講義とワークショップ等をそれぞれ開催し、視覚に障害のある生徒に対しての自然科学分野に関するプログラムの検討・開発を行い、各種研修会や雑誌等で成果を報告・発信した。</p>
	<p>【事業名称】 サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト（講座型学習活動）プランA 【事業主体】 独立行政法人科学技術振興機構</p>	平成18年度	<p>高等部2年・3年を対象に「生物の多様性の不思議～盲人の科学者ヴァーメイの進化論」をテーマに講師を招聘し、講義とワークショップを開催し、視覚に障害のある生徒に対しての自然科学分野に関するプログラムの検討・開発を行い、各種研修会や雑誌等で全国の視覚特別支援学校等に対し、普及を図った。</p>

		平成19年度	<p>中学部3年および高等部2年・3年を対象に「二枚貝の体のつくりと生き方」についての講義とワークショップを開催し、視覚に障害のある生徒に対しての自然科学分野に関するプログラムの検討・開発を行い、各種研修会や雑誌等で成果を報告・発信に努めた。</p>
		平成22年度	<p>京都大学総合博物館と連携し、高等部2年生を対象に「生物の変遷～古生物の探求」についての講義とワークショップを開催し、視覚に障害のある生徒に対しての自然科学分野に関する体験的・問題解決的な学習プログラムの検討・開発を行い、各種研修会や雑誌等で全国の視覚特別支援学校等に対し、普及を図った。</p>
附属聴覚特別支援学校	<p>【事業名称】 自立教科等担当教員講習会（聴覚障害教育担当教員講習会） 【事業主体】 文部科学省</p>	毎年委託を受けている	<p>大学教員等による講演、本校教員による講義、幼稚部から高等部専攻科までの授業公開と授業研究会を行い、理論と実践を通して聴覚障害教育の専門性を高める研修内容である。 聴覚障害教育担当教員講習会を開催し、成果を報告してきた。</p>
附属桐が丘特別支援学校	<p>【事業名称】 特殊教育研究協力校 【事業主体】 文部科学省</p>	平成15～16年度	<p>平成15・16年度文部科学省特殊教育研究協力校研究成果報告書（研究紀要第40巻）として全国に配布。</p>
	<p>【事業名称】 基幹研究協力 【事業主体】 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所</p>	平成22年度	<p>年2回の研究協議会で当校の実施例を発表。 韓国の特別支援教育関係者の授業参観（平成23年3月11日）。 報告書、ケースブックを作成して全国に配布（平成23年3月末）。</p>
附属久里浜特別支援学校	<p>【事業名称】 研究開発学校 【事業主体】 文部科学省</p>	<p>I期 平成16～18年度 II期 平成19～21年度 III期 平成22年度</p>	<p>○各年毎に自閉症教育実践研究協議会を開催し、成果を報告してきた。 ○平成16年～平成18年のI期は、「自閉症の障害特性」からくる種々の困難を主体的に改善・克服するための自立活動を基にした教育課程の開発を行った。 ○平成19年～平成21年II期は、「自閉症児の社会参加と自立を促すための早期からの一貫した学校教育の充実や学校で学んだことを家庭生活や地域生活へ広げるための教育課程の開発」を行った。 ○これらの研究を通して「日常生活」と「社会生活」への適応へと発展させていく指導の枠組みとして新領域の「自律生活」の提案をした。また、自立活動を自閉症の特性に応じた指導内容とするための「自立活動」を提案した。教育課程上の特徴として、個別の課題学習や自律課題を実施し、幼稚部の中に小学部の教科の一部を導入した。 ○平成22年のIII期は、 ・これまでの検討してきた指導内容や領域の新学習指導要領への読替 ・「めざすこども像」の作成 ・「めざす子ども像」に基づく授業作りの取組の報告 ・家庭を支援していくための「家庭への訪問指導」や「保護者学習会」を通して行った取組、の報告を行った。</p>

(4) 教員免許状更新講習への取組状況

教員免許状更新制度の施行に伴い、本学では選択科目として附属学校実践演習を実施しており、全附属学校が講習の企画運営に参画している。また、附属学校教員の中には必修科目、選択科目について講師を担当している者もいる。

平成22年度 教員免許状更新講習における各附属学校教員の講師担当状況

*講師は文部科学省にて承認されている講師である。

担当講師の所属	必修科目担当講師 (必修科目は1講習12時間、4コマで構成)		
	実施日(会場)担当コマ数	担当講師数(のべ)	担当時間数(のべ)
附属中学校	2010.10.30 (NTT DATA 駒場研修センター) 2 コマ	2	6
附属駒場中・高等学校	2010.08.19 (NTT DATA 駒場研修センター) 1 コマ	1	3
附属視覚特別支援学校	2010.08.19 (NTT DATA 駒場研修センター) 1 コマ	1	3
附属学校教育局	2010.06.06 (筑波キャンパス) 2 コマ	2	6
	2010.08.03 (筑波キャンパス) 4 コマ	4	12
	2010.08.19 (NTT DATA 駒場研修センター) 1 コマ	1	3
	2010.08.20 (NTT DATA 駒場研修センター) 1 コマ	1	3
	2010.10.30 (NTT DATA 駒場研修センター) 2 コマ	2	6
	2010.10.31 (NTT DATA 駒場研修センター) 2 コマ	2	6
合 計		16人	48時間
*元附属学校教員を含む	附属学校教員等による必修講習講師の 担当総時間数 48時間		

*講師は文部科学省にて承認されている講師である。

担当講師の所属	選択科目担当講師 (選択科目は1講習6時間) 選択		
	種別	実施日(会場)	担当講師数(のべ)
附属小学校	選択 B	2010.06.12 (筑波キャンパス)	1
		2010.08.04 (筑波キャンパス)	1
		2010.08.21 (附属駒場中・高等学校)	1
	選択 D	2010.07.22 (附属小学校)	4
		2010.07.22 (附属小学校)	4
附属中学校	選択 B	2010.08.04 (筑波キャンパス)	1
	選択 D	2010.06.26 (附属中学校)	2
		2010.11.13 (附属中学校)	2
附属高等学校	選択 B	2010.08.04 (筑波キャンパス)	1
	選択 B	2010.08.22 (附属駒場中・高等学校)	1
	選択 D	2010.12.04 (附属高等学校)	3
附属駒場中・高等学校	選択 B	2010.08.21 (附属駒場中・高等学校)	5

	選択 C	2010.08.22 (附属駒場中・高等学校)	3
	選択 D	2010.08.23 (附属駒場中・高等学校)	4
		2010.11.27 (附属駒場中・高等学校)	1
附属坂戸高等学校	選択 B	2010.06.13 (筑波キャンパス)	1
	選択 D	2010.08.07 (附属坂戸高等学校)	4
		2010.12.11 (附属坂戸高等学校)	4
附属視覚特別支援学校	選択 B	2010.08.21 (附属視覚特別支援学校)	9
	選択 C	2010.08.22 (附属視覚特別支援学校)	4
	選択 D	2010.06.26 (附属視覚特別支援学校)	4
附属聴覚特別支援学校	選択 B	2010.06.12 (筑波キャンパス)	1
		2010.06.13 (筑波キャンパス)	1
		2010.08.21 (附属視覚特別支援学校)	1
	選択 C	2010.08.22 (附属視覚特別支援学校)	1
	選択 D	2010.06.26 (附属聴覚特別支援学校)	3
		2010.12.04 (附属聴覚特別支援学校)	3
附属大塚特別支援学校	選択 B	2010.08.21 (附属視覚特別支援学校)	2
	選択 D	2010.06.26 (附属大塚特別支援学校)	4
		2010.11.06 (附属大塚特別支援学校)	4
附属桐が丘特別支援学校	選択 B	2010.08.21 (附属視覚特別支援学校)	1
	選択 D	2010.06.26 (附属桐が丘特別支援学校)	3
		2010.08.04 (附属桐が丘特別支援学校)	3
附属久里浜特別支援学校	選択 D	2010.06.26 (附属久里浜特別支援学校)	2
		2010.11.06 (附属久里浜特別支援学校)	2
附属学校教育局	選択 B	2010.06.13 (筑波キャンパス)	1
		2010.08.04 (筑波キャンパス)	1
		2010.08.21 (附属駒場中・高等学校)	2
合 計			95人
*元附属学校教員を含む	附属学校教員等による選択講習講師の 担当総時間数 570時間		

必修 A 申込者 1,078人

※「講師派遣」欄と「会場支援」欄の○印は附属学校が協力した講習

開設学部	開設地区	科目名	開催日	定員	申込数	定員充足率	講師派遣	会場支援
必修 A	筑波キャンパス	教育の最新事情	6月5日 6月6日	220	212人	96%		
必修 A	筑波キャンパス	教育の最新事情	8月2日 8月3日	440	512人	116%	○	
必修 A	東京地区 (NTT DATA駒場研修センター)	教育の最新事情	8月19日 8月20日	220	214人	97%	○	○
必修 A	東京地区 (NTT DATA駒場研修センター)	教育の最新事情	10月30日 10月31日	120	140人	117%		○

選択 B 申込者 1,530人

開設学部	開設地区	科目名	開催日	定員	申込数	定員充足率	講師派遣	会場支援
選択 B	筑波キャンパス	新教育課程における言語活動の重視と読解力の育成	6月12日	40	43人	108%	○	
選択 B	筑波キャンパス	フィールドワークを取り入れた社会科(地歴)授業の構成	6月12日	30	35人	117%		

選択 B	筑波キャンパス	国際比較を通してみる数学教育の現状と課題	6月12日	40	21人	53%		
選択 B	筑波キャンパス	理科好きな子どもを育てる授業	6月12日	40	40人	100%		
選択 B	筑波キャンパス	英語授業力をワン・ステップ・アップする工夫	6月12日	40	21人	53%		
選択 B	筑波キャンパス	体育授業と体育心理学/体育授業の見直し	6月12日	40	32人	80%		
選択 B	筑波キャンパス	図画工作・美術教育を複眼的に考える	6月12日	25	28人	112%		
選択 B	筑波キャンパス	心の教育からの脱却と道徳教育	6月12日	40	48人	120%		
選択 B	筑波キャンパス	特別支援教育における体育～障害のある子どもも“いきいき”できる体育活動をめざして～	6月13日	30	33人	110%		
選択 B	筑波キャンパス	ICTと視聴覚メディアの教育利用	6月13日	20	20人	100%		
選択 B	筑波キャンパス	キャリア教育	6月13日	40	45人	113%		
選択 B	筑波キャンパス	学校生活で苦戦する子どもへの援助	6月13日	40	48人	120%	○	
選択 B	筑波キャンパス	特別なニーズのある子どもの理解と支援	6月13日	40	49人	123%	○	
選択 B	筑波キャンパス	新教育課程における言語活動の重視と読解力の育成	8月4日	40	49人	123%	○	
選択 B	筑波キャンパス	社会科（公民）授業における参加型学習の活用	8月4日	40	51人	128%		
選択 B	筑波キャンパス	数学の歴史と文化～楽しい算数・数学的活動の授業づくり～	8月4日	50	60人	120%	○	
選択 B	筑波キャンパス	理科好きな子どもを育てる授業	8月4日	40	46人	115%		
選択 B	筑波キャンパス	英語授業力をワン・ステップ・アップする工夫	8月4日	40	53人	133%		
選択 B	筑波キャンパス	児童生徒の現代的課題に対応した健康教育の考え方と進め方	8月4日	40	60人	150%		
選択 B	筑波キャンパス	書写・書道教育の今日的課題	8月4日	30	30人	100%		
選択 B	筑波キャンパス	ICTと視聴覚メディアの教育利用	8月4日	20	20人	100%		
選択 B	筑波キャンパス	心の教育からの脱却と道徳教育	8月4日	40	83人	208%		
選択 B	筑波キャンパス	進路と教育	8月4日	40	39人	98%		
選択 B	筑波キャンパス	学校生活で苦戦する子どもへの援助	8月4日	40	50人	125%	○	
選択 B	筑波キャンパス	特別なニーズのある子どもの理解と支援	8月4日	40	48人	120%		
選択 B	附属駒場中・高等学校	特別なニーズのある子どもの理解と支援	8月21日	40	47人	118%	○	○
選択 B	附属駒場中・高等学校	演劇の専門家とつくる教室	8月21日	20	23人	115%	○	○
選択 B	附属駒場中・高等学校	法教育入門～契約から裁判員制度まで～	8月21日	40	40人	100%	○	○
選択 B	附属駒場中・高等学校	ゲノム情報を活用する遺伝子実験の紹介	8月21日	20	18人	90%	○	○
選択 B	附属駒場中・高等学校	数学的能力を育成する新しい教材～附属筑駒中高の授業から～	8月21日	40	27人	68%	○	○
選択 B	附属駒場中・高等学校	考える算数・体験的算数	8月21日	40	82人	205%	○	○
選択 B	附属駒場中・高等学校	五感で学ぶABC～ローマ字学習と運動させて～	8月21日	40	39人	98%		○
選択 B	附属駒場中・高等学校	新聞活用（NIE）で育む言語力	8月21日	40	57人	143%		○
選択 B	附属視覚特別支援学校	点字と手引きを学ぶ～視覚に障害のある児童・生徒の理解のために～	8月21日	20	18人	90%	○	○
選択 B	附属視覚特別支援学校	触って考える算数・数学	8月21日	20	20人	100%	○	○
選択 B	附属視覚特別支援学校	響きを聴きあうアンサンブル	8月21日	20	20人	100%	○	○
選択 B	附属視覚特別支援学校	就学前の子どもたちと家族への支援	8月21日	20	35人	175%	○	○
選択 B	附属視覚特別支援学校	小中学校に在籍する気になる子への支援～発達障害に焦点をあてて～	8月21日	20	52人	260%	○	○

選択C申込者 1,396人

開設学部	開設地区	科目名	開催日	定員	申込数	定員充足率	講師派遣	会場支援
選択C	筑波キャンパス	中高生と考える現代文化の諸問題～思想・芸術を通じて～	6月19日	30	6人	20%		
選択C	筑波キャンパス	楽しい数の話と面白い論理の話	6月19日	40	34人	85%		
選択C	筑波キャンパス	安全衛生と化学物質～身近な化学物質との付き合い方～	6月19日	40	28人	70%		
選択C	筑波キャンパス	少子高齢化に対応した社会システム	6月19日	35	15人	43%		
選択C	筑波キャンパス	安全と安心の科学～リスクのクリリとなる学問～	6月19日	40	10人	25%		
選択C	筑波キャンパス	電子回路とパソコンによる音楽音響制作	6月19日	20	6人	30%		
選択C	筑波キャンパス	ガイアの科学：生物進化と地下資源	6月19日	40	26人	65%		
選択C	筑波キャンパス	球技の効果的な指導方法	6月19日	40	34人	85%		
選択C	筑波キャンパス	構成演習～やって実感！色と形の構成の魅力～	6月19日	35	37人	106%		
選択C	筑波キャンパス	映像の教室～メディア教育のための基礎知識～	6月19日	30	17人	57%		
選択C	筑波キャンパス	文化・教育・地域への芸術の役割	6月20日	40	25人	63%		
選択C	筑波キャンパス	イタズラ実験オモシロ工作	6月20日	40	50人	125%		
選択C	筑波キャンパス	ストレスマネジメントスキル	6月20日	40	50人	125%		
選択C	筑波キャンパス	道徳・倫理教育の新しい可能性～心理学的手法からのアプローチ～	8月5日	50	60人	120%		
選択C	筑波キャンパス	グローバリゼーションの国際比較と情報の国際交流	8月5日	40	19人	48%		
選択C	筑波キャンパス	組織マネジメントと人材育成	8月5日	40	55人	138%		
選択C	筑波キャンパス	宇宙の歴史を探る～ビッグバンからブラックホールまで～	8月5日	50	49人	98%		
選択C	筑波キャンパス	身近な物質の不思議さ・面白さ	8月5日	20	20人	100%		
選択C	筑波キャンパス	社会で役立つ数学	8月5日	35	33人	94%		
選択C	筑波キャンパス	情報学の最前線	8月5日	40	27人	68%		
選択C	筑波キャンパス	里山探検隊	8月5日	40	45人	113%		
選択C	筑波キャンパス	風景の科学・露頭の科学	8月5日	40	30人	75%		
選択C	筑波キャンパス	大気現象の科学と地球規模の環境変動	8月5日	40	31人	78%		
選択C	筑波キャンパス	歴史・教育・文化	8月5日	40	48人	120%		
選択C	筑波キャンパス	体育からの発信！体験の重要性から総合的な学習の時間を見直す	8月5日	40	39人	98%		
選択C	筑波キャンパス	安全なスポーツ活動のために～内的・外的スポーツ障害への対処法～	8月5日	40	48人	120%		
選択C	筑波キャンパス	日本の伝統スポーツを知る～蹴鞠、打毬、流鏑馬に触れる～	8月5日	40	36人	90%		
選択C	筑波キャンパス	これからの社会を健康に生き抜くために	8月5日	20	30人	150%		
選択C	附属駒場中・高等学校	学校トラブル……大事件に到らないための教師のアクションとは？	8月22日	40	72人	180%		○
選択C	附属駒場中・高等学校	自然人類学における最新トピックス	8月22日	40	29人	73%		○
選択C	附属駒場中・高等学校	コレで子どもたちの指導もバッチリ！～ワープロ、表計算ソフト、インターネット即効活用法～	8月22日	30	30人	100%	○	○
選択C	附属駒場中・高等学校	私たちのからだと地球を支える身近なマイクロワールド～食育、環境教育に役立つ微生物・バイオのはなし～	8月22日	40	38人	95%	○	○

選択C	附属駒場中・高等学校	「資料の活用」・「データの分析」必修化で育む課題解決力～目的・授業運営・評価～	8月22日	40	24人	60%		○
選択C	附属駒場中・高等学校	楽しく学ぶ天気予報活用術	8月22日	40	70人	175%	○	○
選択C	附属駒場中・高等学校	発達期のこころと行動～小児科・精神科の視点から～	8月22日	40	148人	370%	○	○
選択C	附属視覚特別支援学校	東洋医学的アプローチによる生徒の健康管理	8月22日	20	20人	100%		○
選択C	附属視覚特別支援学校	車いす体験とリハビリテーションの理論	8月22日	20	18人	90%	○	○
選択C	附属視覚特別支援学校	箏で「さくら」を弾こう	8月22日	20	19人	95%	○	○
選択C	附属視覚特別支援学校	ものづくり・からだづくり～手織の良さを体感しよう・Gボールで楽しく身体を動かそう～	8月22日	20	20人	100%	○	○

選択D申込 854人

開設学部	開設地区	科目名	開催日	定員	申込数	定員充足率	講師派遣	会場支援
選択D	附属小学校	附属小学校実践演習	7月22日	100	123人	123%	○	○
選択D	附属小学校	附属小学校実践演習	8月6日	120	155人	129%	○	○
選択D	附属中学校	附属中学校実践演習	6月26日	40	47人	118%	○	○
選択D	附属中学校	附属中学校実践演習	11月13日	30	51人	170%	○	○
選択D	附属高等学校	附属高等学校実践演習	12月4日	30	51人	170%	○	○
選択D	附属駒場中・高等学校	附属駒場中・高等学校実践演習	8月23日	40	59人	148%	○	○
選択D	附属駒場中・高等学校	附属駒場中・高等学校実践演習	11月27日	40	55人	138%	○	○
選択D	附属坂戸高等学校	附属坂戸高等学校実践演習	8月7日	30	22人	73%	○	○
選択D	附属坂戸高等学校	附属坂戸高等学校実践演習	12月11日	30	37人	123%	○	○
選択D	附属視覚特別支援学校	附属視覚特別支援学校実践演習	6月26日	20	16人	80%	○	○
選択D	附属聴覚特別支援学校	附属聴覚特別支援学校実践演習	6月26日	25	26人	104%	○	○
選択D	附属聴覚特別支援学校	附属聴覚特別支援学校実践演習	12月4日	20	32人	160%	○	○
選択D	附属大塚特別支援学校	附属大塚特別支援学校実践演習	6月26日	35	38人	109%	○	○
選択D	附属大塚特別支援学校	附属大塚特別支援学校実践演習	11月6日	25	46人	184%	○	○
選択D	附属桐が丘特別支援学校	附属桐が丘特別支援学校実践演習	6月26日	25	10人	40%	○	○
選択D	附属桐が丘特別支援学校	附属桐が丘特別支援学校実践演習	8月4日	30	26人	87%	○	○
選択D	附属久里浜特別支援学校	附属久里浜特別支援学校実践演習	6月26日	30	23人	77%	○	○
選択D	附属久里浜特別支援学校	附属久里浜特別支援学校実践演習	11月6日	25	37人	148%	○	○

【免許状更新講習 申込者数】

	大学全体の申込者数	大学全体のうち附属学校教育局又は附属学校が講師派遣、会場支援で協力した講習の申込者数
必修A	1,078人	866人
選択B	1,530人	777人
選択C	1,396人	488人
選択D	854人	860人
理療科	34人	34人
総計	4,892人	3,025人

(5) 留学生等の受入及び附属学校生徒の海外派遣状況

本学附属学校では、近年、アジア等の海外の生徒を受け入れたり、また、附属学校の生徒を海外に派遣している。

【留学生等の受入】

年 度	附属学校	受入人数	期 間	派遣元 (国名・学校名)	寄宿先(ホームステイ・寄宿舎等別)	備 考
平成19年度	附属中学校	3名	平成19年11月22日～11月29日	シンガポール共和国・HWA CHONG 中学校	ホームステイ (3年男子生徒の家庭)	男子生徒3名
	附属高等学校	5名	平成19年11月22日～11月29日	シンガポール共和国・HWA CHONG 校	ホームステイ	通常授業に参加
	附属視覚特別支援学校	1名	平成19年度から3年間	ミャンマー連邦	視覚特別支援学校寄宿舎	鍼灸手技療法科
	計	9名				
平成20年度	附属中学校	1名	平成20年11月17日～11月24日	シンガポール共和国・HWA CHONG 中学校	ホームステイ (2年男子生徒の家庭)	男子生徒1名
	附属高等学校	7名	平成20年11月17日～11月24日	シンガポール共和国・HWA CHONG 校	ホームステイ	通常授業に参加
	附属視覚特別支援学校	2名	平成20年度から3年間	大韓民国、ベトナム社会主義共和国	視覚特別支援学校寄宿舎	鍼灸手技療法科
	計	10名				
平成21年度	附属中学校	3名	平成21年11月16日～11月20日	シンガポール共和国・HWA CHONG 中学校	ホームステイ	男子1名、女子2名
	附属高等学校	12名	平成21年11月14日～11月22日	シンガポール共和国・HWA CHONG 校	ホームステイ	通常授業に参加
	附属坂戸高等学校	6名	平成21年10月22日～11月13日	タイ王国・ワタナー・ウィタヤー・アカデミー	ホームステイ	通常授業に参加
	附属視覚特別支援学校	2名	平成21年度から3年間	マレーシア、モンゴル国	視覚特別支援学校寄宿舎	鍼灸手技療法科
	計	23名				
平成22年度	附属中学校	8名	平成22年11月16～11月26日	シンガポール共和国・HWA CHONG 中学校	附属高等学校生徒宅にホームステイ	附属高等学校で交流会
	附属高等学校	8名	平成22年11月16日～11月26日	シンガポール共和国・HWA CHONG 校	ホームステイ	通常授業に参加
	附属駒場高等学校	1名	平成22年 6 月16日～6月29日	アメリカ合衆国	ホームステイ	通常授業に参加
	附属視覚特別支援学校	1名	平成22年度から3年間	モンゴル国	視覚特別支援学校寄宿舎	鍼灸手技療法科
	計	18名				

【附属学校生徒の海外への派遣】

年 度	附属学校	受入人数	期 間	派遣元 (国名・学校名)	寄宿先(ホームステイ・寄宿舎等別)	備 考
平成19年度	附属中学校	5名	平成20年3月24日～4月1日	シンガポール共和国・HWA CHONG 中学校	ホームステイ	生徒家庭各1名ずつ
	附属高等学校	9名	平成20年3月24日～4月1日	シンガポール共和国・HWA CHONG 校	ホームステイ	通常授業に参加
	附属駒場高等学校	1名	平成19年6月22日～8月21日	アメリカ合衆国	ログハウスやテント	Camp Rising Sun に参加
		3名	平成19年8月5日～8月11日	中華民国	Chientan overseas Youth Activity Center	Asian Science Camp 2007
	計	18名				
平成20年度	附属中学校	5名	平成21年3月30日～4月6日	シンガポール共和国・HWA CHONG 中学校	ホームステイ	生徒家庭各1名ずつ
	附属高等学校	8名	平成21年3月29日～4月6日	シンガポール共和国・HWA CHONG 校	ホームステイ	通常授業に参加
	附属駒場高等学校	1名	平成20年6月21日～7月18日	アメリカ合衆国	ログハウスやテント	Camp Rising Sun に参加
		10名	平成20年12月25日～12月30日	中華人民共和国・北京師範大学附属実験中学	実験中学附属宿泊施設	SSH 生徒 研究 交流会
	附属坂戸高等学校	1名	平成20年8月2日～8日	フィリピン	ホームステイと民間宿泊施設	国際卒業研究
	計	25名				

平成21年度	附属中学校	6名	平成22年3月27日～4月4日	シンガポール共和国・HWA CHONG 中学校	ホームステイ	生徒家庭各1名ずつ
	附属高等学校	9名	平成22年3月27日～4月4日	シンガポール共和国・HWA CHONG 校	ホームステイ	通常授業に参加
	附属駒場高等学校	10名	平成21年12月14日～12月19日	中華民国・国立台中第一高級中学	民間宿泊施設	SSH 生徒 研究交流会
	附属坂戸高等学校	1名	平成21年7月12日～18日	中華人民共和国	民間宿泊施設	国際卒業研究
		1名	平成22年1月5日～9日	タイ・カセサート大学	寄宿舍・民間宿泊施設	国際卒業研究
	計	27名				
平成22年度	附属中学校	3名	平成23年3月26日～4月4日	シンガポール共和国・HWA CHONG 中学校	ホームステイ	生徒家庭各1名ずつ
	附属高等学校	9名	平成23年3月26日～4月4日	シンガポール共和国・HWA CHONG 校	ホームステイ	通常授業に参加
	附属駒場高等学校	1名	平成22年6月24日～8月17日	アメリカ合衆国	ログハウスやテントなど	Camp Rising Sun に参加
		14名	平成22年12月14日～12月19日	中華民国・国立台中第一高級中学	民間宿泊施設等	SSH 生徒 研究交流会
	附属坂戸高等学校	1名	平成23年1月3日～8日	インドネシア	民間宿泊施設	国際卒業研究
		5名	平成23年3月12日～19日	インドネシア・ボゴール農科大学・コルニタ高等学校・JICA インドネシア事務所・インドネシア環境省等	民間宿舎	トヨタ財団アジア隣人プログラム
	計	33名				

(6) 国際交流協定締結状況

本学附属学校では国際交流を推進するため、海外の大学附属学校等と協定を締結している。

項目 学校名	締結相手 (国名、機関名)	協定締結日	締結期間
		附属中学校	中華人民共和国 北京師範大学第二附属高校
附属高等学校	中華人民共和国 北京師範大学第二附属高校	2006年12月1日	2006.12.1～2011.11.30
附属駒場中・高等学校	中華人民共和国 北京師範大学第二附属高校	2006年12月1日	2006.12.1～2011.11.30
附属坂戸高等学校	インドネシア共和国 ボゴール農科大学附属コルニタ高等学校	2011年3月14日	2011.3.14～2016.3.13
附属聴覚特別支援学校	フランス 国立パリ聾学校	2011年3月22日	2011.3.22～2016.3.21
附属大塚特別支援学校	大韓民国 大邱大学校大邱保明学校	2009年12月29日	2009.12.29～2014.12.28
附属桐が丘特別支援学校	大韓民国 三育再活学校	2010年2月3日	2010.2.3～7 2013.2.2

(7) 国際教育事業への取組状況

本学附属学校では、各附属学校ごとに国際教育事業として海外の学校との児童生徒や教員の交流事業を実施している。

【平成22年度実施】

学校名	分類	事業名	相手国	概要	派遣人数		受入人数		期間(時期)	その他	
					教員	生徒	教員	生徒			
附属小学校	児童間交流	①光州市松源初等学校から修学旅行生受け入れ	大韓民国	修学旅行で来日した松源初等学校の児童との交流と授業参加			4	80	H22.9.16		
	研究交流	②日本と韓国における初等教育レベルの「授業研究会」のあり方に関する共同研究	大韓民国	順천시海竜初等学校から教員を受け入れ、授業参観の後、質疑応答を行った。			10		H23.2.23	授業研究後、協議会、質疑応答を行い、より深い技術交流を行った。	
	研究交流	③日本と韓国における初等教育レベルの「授業研究会」の在り方に関する共同研究	大韓民国	光州市松源初等学校及び全州の初等学校において、現地児童への授業研究会を開催した。	4				H22.10.10～10.13(4日間)	授業研究後、協議会、講演、質疑応答を行い、より深い技術交流を行った。	
附属中学校	短期留学交流	①シンガポールホアチオン中学との相互短期留学	シンガポール共和国	相互の学校及びホームステイで交流を行った。	2	3			H23.3.26～23.4.4(10日間)		
									H22.11.18	附属高等学校への短期留学者と附属高等学校で交流を行った。	
附属高等学校	生徒間交流	②北京私立ホイジア学校からの修学旅行生受け入れ	中華人民共和国	修学旅行で来日したホイジア学校の生徒との交流と授業参加			3	41	H23.1.24		
	生徒間交流	①中国北京市及び北京市高校との交流	中華人民共和国	相互の学校で授業、部活動、生徒会主催交流会、1日ホームステイで交流	2	20			H22.10.10～10.17(8日間)	北京市人民政府および市内の3高校を訪問交流	
							7	40	H22.7.13、17		
生徒間交流	②アジア太平洋青少年リーダーズサミットへの生徒派遣	シンガポール共和国	東アジアを中心に13ヶ国の高校生が参加。シンガポールの政府機関見学、有識者講義・討論、参加各国生徒による討論などを通じて交流を行った。	1	3			H22.7.18～7.29(12日間)	会場：シンガポールホアチオン校		
短期留学交流	③シンガポールホアチオン校との相互短期留学	シンガポール共和国	相互の学校及びホームステイで交流	2	9			H23.3.26～4.4(10日間)	平成18年度から継続している		
						1	8	H22.11.16～11.26(11日間)			
附属駒場中・高等学校	大学への協力	①筑波大学教員研修留学生との共同研究		国際理解教育の共同研究				16	1日間×数回	本校をフィールドにして共同研究を行う受入生徒は留学生	
	短期留学交流	②台湾国立台中第一高級中学との生徒・教員交流	中華民国	台湾国立台中第一高級中学校で合同研究発表を行い、授業にも参加した。	4	14			H22.12.14～12.19(6日間)	SSH事業の一環(JST主催)	
	教員研修	③新規交流校開拓のための実地踏査(台湾台中市)	中華民国	②を実施するために事前に相手校を訪問し協議	3				2009.11.3～5(3日間)		
	生徒間交流	③Amity International School生徒との交流	インド	授業への参加等の生徒間交流					10	H22.5.13	
	文化交流	④ジャパンリターンプログラムへの協力		「日本語サミット・ニッポン新発見塾」および「在日外交官日本語ブラッシュアップ研修」への協力		30	9			H22.11.20	特定非営利活動法人JRP主催事業への協力受入の9名は外交官及び各国代表塾生

	研究交流	⑤各種国際オリンピックへの生徒派遣		国際化学・地理・情報オリンピックへの日本代表生徒の派遣	3				
	教員研修	⑥韓国高校訪問	大韓民国	生徒間交流の可能性について、釜山国際高校及び韓国科学アカデミーと意見交換を行った。	3			H22.12.18～12.21	
	研究交流	⑦東京都SSH指定校研究発表会	タイ	タイ教育省・IPSTとして発表会に参加した。		8		H22.12.23	
	研究交流	⑧韓国教育庁訪問	大韓民国	韓国光州広域市教育長関係者による学校訪問を行った。		43		H23.1.25	
	教員研修	⑨フルブライト・ジャパン「持続的発展教育(ESD)日米教員交流プログラム」	アメリカ合衆国	ワシントンDCなどを訪問	1			H22.4.23～5.8	
	教員研修	⑩中国政府日本教職員招へいプログラム	中華人民共和国	中国貴州などを訪問	1			H22.5.30～6.6	
	教員研修	⑪韓国政府日本教職員招聘プログラム(ACCU国際教育交流事業)	大韓民国	教諭(地理)の派遣	1			H22.8.25～9.3	
附属坂戸高等学校	教員研修	①ESD日米教員交流プログラム—日本教員米国派遣プログラム	アメリカ合衆国	ESD日米教員交流プログラム：日本教員米国派遣プログラムにより、米国に本校の教員を派遣しESDの取り組みについて意見交換、共同研究による日米の教員交流を行った。	1			H22.4.23～5.8(16日間)	
	教員研修	②ESD日米教員交流プログラム—米国教員日本派遣プログラム	アメリカ合衆国	ESD日米教員交流プログラム：米国教員日本派遣プログラムにより、本校に16名の米国教員を受け入れESDの実践に関する協議、共同研究による日米の教員交流を行った。		16		H22.6.25	
	生徒間交流	③平成22年度中国香港・澳門高校訪日団受入れ	中華人民共和国	21世紀東アジア青少年大交流計画(日中21世紀交流国事業)への協力		7	22	H22.6.28	
	研究交流	④アジア隣人プログラムの共同活動に関する協議・協力依頼、及びコロナ高校との連携に関する協議	インドネシア共和国	ユネスコスクール事業、アジア隣人プログラム関連視察及び姉妹校締結予定であるコロナ高校との今後の連携に関する協議を行った。	2			H22.12.16～12.25(10日間)	
	研究交流	⑤国際的視野に立った卒業研究の支援プログラム	インドネシア共和国	教科「卒業研究」での取り組みのうち、国際的研究を行う生徒に対して支援した。	1	1		H23.1.2～1.8(7日間)	土団子を利用したアルカリガラス栽培技術研究のための土壌調査
	教員研修	⑥ESD教員交流プログラム	中華人民共和国	ESD教員交流プログラム：本校に26名の中国教員を受け入れ、ESDの実践に関する協議、共同研究による日中の教員交流を行った。			26	H22.10.14	
	研究・生徒間交流	⑦インドネシア共和国ボゴール農科大学附属コロナ高等学校との国際交流協定書の締結、及びアジア隣人プログラムに係るプロジェクト	インドネシア共和国	インドネシア共和国ボゴール大学附属コロナ高等学校との国際交流協定書の締結、及びアジア隣人プログラムによるプロジェクトを実施した。	3	5		H23.3.12～3.19(8日間)	23年3月14日締結済
附属視覚特別支援学校		①インド共和国における視覚障害者の職業教育支援	インド	インドにおける視覚障害者教育の現状を知るための実地調査及び視覚障害児のための理科実験のデモンストレーション	2			H22.12.23～12.29(7日間)	
附属聴覚特別支援学校	研究交流	①日本と台湾における聴覚障害児の体育担当者の指導力向上に向けた教材作成	中華民国	日台の聴覚障害児の体育的指導力向上に向けた教材作成	3			H22.10.27～10.29(3日間)	本事業は3年計画の1年目

	研究交流	②日韓特別支援学校美術教育における作品鑑賞充実のためのICT教材作成と作品を通しての交流	大韓民国	美術教育における作品鑑賞充実のためのITC教材の開発を韓国の聾学校と共同で行い、実際の授業で活用する。	2				H22.12.12～12.14 (3日間)	本事業は3年計画の最終年間
		③フランス国立パリ聾学校との姉妹校提携に関する協定締結	フランス共和国	フランス国立パリ聾学校との姉妹校提携に関する協定締結予定						H23.3.22締結
附属大塚特別支援学校	研究交流	①大邱大学校特別支援学校との研究協力	大韓民国	昨年度交流協定を締結した大邱大学校保明学校と知的障害児教育に関して共同研究を行う	4				H23.3.22～3.24	(震災のため中止)
附属桐が丘特別支援学校	生徒間交流研究交流	②インターネットを通じた遠隔地授業と直接交流による共同学習の実施	大韓民国	三育再活学校との教育実践研究ネットワークを構築するために教員間、生徒間の交流をすすめる。高等部3年生の修学旅行で同校を訪問し、生徒間の交流を行った。教員が三育再活学校を訪問、教科指導に於ける手だて方法について情報交換	6	9			H22.7.7 (1日) (修学旅行時高3生徒) H23.3.29～3.31 (3日間) (教員)	本事業は3年計画の1年目 生徒派遣9名は韓国修学旅行時に訪問 (教員派遣は震災のため中止)
附属久里浜特別支援学校	教員研修	①日英自閉症児教育の実践研究にかかわる国際交流	英国	英国における自閉症児教育の現状を視察。ポートマン早期子どもセンター、グレート・オークス・スクール、オーク・ロッジ・スクール	2				H22.12.13～12.25 (13日間)	

(8) 教員の海外派遣、海外からの教員研修の受入状況

本学附属学校の教員は JICA (国際協力機構) からの依頼等により、海外の学校に派遣される者がいる。また、各附属学校においては JICA (国際協力機構) 等の依頼により、海外の学校関係者の視察を多く受け入れている。

海外教員指導のための附属学校教員の海外派遣 (JICA への協力による教員の海外派遣及びその他の派遣)

	平成22年度				平成21年度			
	人数	期 間	国	事 項	人数	期 間	国	事 項
附属小学校	1人	2010/6/26～7/3	メキシコ	メキシコ政府招聘 (カリキュラム・教科書作成) (JICA)	1人	2010/3/20～2010/3/30	ウガンダ	中等理数教科教科全国展開プロジェクト短期派遣専門家 (算数・数学教育) (JICA)
					1人	2009/4/20～2009/5/4	ホンジュラス	算数指導力向上プロジェクトフェーズII短期派遣専門家 (授業改善) (JICA)
附属坂戸高等学校	1人	2010/5/14～17	中国	北京かるた大会での大会役員として模範試合、読手、審判を指導	1人	2009/4/1～2010/3/22	インドネシア	ボランティア派遣 (2008/6/23～) (JICA)
	1人	2011/1/17～18	韓国ソウル	ソウルの中学・高等学校で日本語を教える韓国人教師に向けた競技かるたを指導	4人	2010/1/24～1/28	インドネシア	コルニタ高校において、高校総合学科と連携したインドネシアにおける身近なエネルギー環境教育について、教育カリキュラム・教材の提示及び、模擬授業による指導を実施。
附属視覚特別支援学校	1人	2010/8/25～8/29	中華民国	台南大学において、視覚障害に携わる教員対象に理科実験・触察に関するワークショップの開催				
附属学校教育局	1人	2010/8/22～8/25	韓国	授業研究	1人	2010/3/20～2010/3/30	ウガンダ	中等理数教科教科全国展開プロジェクト短期派遣専門家 (授業研究) (JICA)

海外の教員研修等の受入（JICA への協力による海外の教員の受入及びその他の受入）

	平成22年度				平成21年度			
	期 間	国	人数	事 項	期 間	国	人数	事 項
附属小学校	2010/5/18	韓国	31	授業・学校参観	2009/6/18～6/19	中南米	8	公開研究会参加 (JICA)
	2010/7/17	ケニア	2	授業・学校参観 (JICA)	2009/9/15	アメリカ	1	算数授業見学 (JICA)
	2010/9/10	カンボジア・インドネシア・ラオス・モンゴル・ミャンマー	10	理科・算数の授業見学とその解説 (JICA 中国)	2009/9/28	タイ	10	教育省関係者研修、算数授業見学 (JICA)
	2010/9/15	韓国	81	授業・学校参観	2009/11/9～2009/11/27	中南米	8	算数科研修 (JICA)
	2010/10/6	タイ	4	授業・学校参観 (JICA)	2009/11/30	アフリカ	15	参観 (JICA)
	2010/11/15～11/19	南米地域	7	算数科 (JICA)				
	2010/11/22	コロンビア、ドミニカ	11	算数科 (JICA)				
	2011/2/7～25	ミャンマー、ネパール、フィジー、トンガ、バヌアツ、南アフリカ他	10	授業・学校参観				
	2011/2/17	APEC 各国	100	授業・学校参観(算数)				
	2011/2/18	APEC 各国	40	授業・学校参観(理科)				
附属中学校	2010/12/15	ソウル教育庁	3	学校参観	2009/9/29	タイ	10	数学科授業研究 (JICA)
					2009/11/6	中南米	6	授業参観 (JICA)
附属高等	2010/6/8	シンガポール	14	授業参観、教育課程等に関する視察・研修	2009/7/1	韓国	3	国語、科学の授業参観、教育課程に関する研修
	2010/7/1	インドネシア	19	授業参観、教育課程等に関する視察・研修				
附属駒場中・高等学校	2010/6/25	アメリカ合衆国 (ESD 米国教職員団)	16	授業参観、生徒による研究発表見学、水田見学等	2009/9/29	タイ	19	学校見学及び質疑応答
	2010/12/21	ネパール教育省	6	学校組織説明、学校見学	2010/10/15	中国	30	授業参観生徒との意見交換
	2010/12/23	タイ教育省・科学技術教育振興研究所	9	東京都 SSH 指定校合同発表会見学等	2010/1/21	タイ	29	授業参観
	2011/1/25	韓国光州広域市教育庁	43	学校見学				
附属坂戸高等学校	2010/6/25	アメリカ合衆国	20	ACCU (ユネスコ・アジア文化センター) からの申し入れによる ESD 実践校の教員の受入れ授業見学等	2009/3/17～19	インドネシア	2	国際協力イニシアティブ事業の一環として教員の受入と研修、授業見学等
	2010/10/14	中国	30	ACCU (ユネスコ・アジア文化センター) からの申し入れによる ESD 実践校の教員の受入れ授業見学等	2009/10/20	タイ	2	教育システム全般の研修と授業への参加
附属視覚特別支援学校	2010/7/7	アフガニスタン・タイ	24	アフガニスタン・タイ教育省視察	2009/6/3	アフガニスタン	7	授業参観
	2010/11/15	コロンビア	1	鍼灸手技療法の実習視察	2009/6/23	ベトナム	5	授業参観、治療室視察
	2010/12/17	韓国	4	視覚障害者の職業教育の実際について視察				
附属聴覚特別支援学校	2010/6/25	フィリピン	1	授業参観	2009/9/7	南米	7	授業参観 (JICA 南米地域特別支援教育研修員)
附属大塚特別支援学校	2010/6/19	モンゴル	4	モンゴルダウン症協会教員・関係者視察	2009/9/16	JICA 南米地域	7	特別支援教育研修
	2010/9/24	JICA 南米地域	9	特別支援教育研修	2009/9/30	タイ	10	教員研修
	2010/10/14	JICA 中西部アフリカ	10	幼児教育研修	2009/10/13	JICA 中西部アフリカ	1	幼児教育研修
	2010/12/9、12/14	フィリピン	1	保育士研修	2009/10/20～10/24	スイス	1	保育士研修

					2010/1/22	韓国	45	大邱大学特別支援教育専攻視察
附属桐が丘特別支援学校	2010/7/6	タイ	6	授業見学及び研究関係説明	2009/9/9	中南米	7	学校見学及び質疑応答
	2010/9/22	ボリビア ・エクアドル・ パラグアイ	9	授業見学				
附属久里浜特別支援学校	2010/9/14	JICA アジア	8	教員研修 (JICA)	2009/4/8	タイ	36	参観
	2010/9/24	JICA 南米地域	9	地域別研修「特別支援教育コース研修」 (JICA)	2009/5/8	中国	3	参観
	2010/9/6～ 9/10	中国寧波市達敏学校	9	教員研修	2009/5/25	タイ	20	研修
	2010/12/13～ 12/17	中国寧波市達敏学校	5	教員研修	2009/9/17	南米	9	障害児教育コース研修
					2010/1/25	韓国	8	研修
					2010/3/15～ 3/19	中国寧波市達敏学校	4	教員研修

(9) 附属学校等出版物刊行状況

附属学校教育局及び各附属学校においては、これまで各附属学校の教育実践や教育研究に関する様々な出版物を刊行してきている。

附属学校等出版物刊行状況（平成16年度から平成22年度に刊行したもの）

所 属	刊 行 物	刊行年度
附属学校教育局	附属学校教育局広報誌ポローニア	H16～毎年度
	筑波大学学校教育論集	S53～毎年度
	日本の教育を拓く	H19
	もっと知りたい！ 科学の芽の世界	H20
	もっと知りたい！ 科学の芽の世界パート2	H22
附属小学校	教育研究	毎年度
	研究紀要	毎年度
	国際協力ハンドブック	H19
	子ども力を高める授業	H19
附属中学校	研究紀要	毎年度
	研究資料〈教育課程研究〉総合学習研究	毎年度
附属高等学校	研究紀要	S35～毎年度
	学習指導案作成の研究	H22
附属駒場中・高等学校	筑波大学附属駒場論集	S36～毎年度
	教育研究大会報告書	毎年度
	筑駒「リーダー形成」プロジェクト報告書	H18
	筑波大学社会貢献プロジェクト筑駒アカデミア報告書	H19～毎年度
	スーパーサイエンスハイスクール研究開発実施報告書	H16～毎年度
	スーパーサイエンスハイスクール数学研究開発報告書	H20
	スーパーサイエンスハイスクール卒業論文集	H20
	スーパーサイエンスハイスクール交流枠支援教員研修「数学科教員研修会 in 駒場」報告書	H21～毎年度
	Academic and Cultural Exchange Program in Taichung 2009	H21～毎年度
	スーパーサイエンスハイスクール数学科教員合同研究会資料	H22
	和算ワークショップ資料集	H20
	附属坂戸高等学校	研究紀要
総合学科研究大会資料集		H7～

	研究開発実施報告書	S63～H17
	ICT 人材育成プロジェクト研究開発実施報告書	H17～
	「高等学校における発達障害支援モデル事業」中間報告・実施報告書	H19～H20
	平成21年度サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト実施報告書	H21
附属視覚特別支援学校	教育相談・支援パンフレット	H17～毎年度
	育児学級パンフレット	H17～毎年度
	サポーターブック	H18～毎年度
	視覚障害教育研究協議会資料集	毎年度
	研究紀要	毎年度
	視覚教育ブックレット	H18～毎年度
	専攻科パンフレット	毎年度
	東京盲聾学校発祥の地、日本点字制定の地記念碑建立パンフレット	H22
附属聴覚特別支援学校	乳幼児教育相談パンフレット	毎年度
	学校案内パンフレット	H18～毎年度
	筑波大学附属聾学校学習指導案集	H18～H19
	筑波大学附属聾学校資料集	H18～H19
	筑波大学聾学校紀要	毎年度
	聴覚障害	毎年度
	社会で自立する力を育てる一科目「社会生活」のテキストと指導の実践―	H21～毎年度
	永年聾学校にいた者から『ほんのひとこと』〈聾学校における授業改善の視点と方法〉	H21～毎年度
	聴覚障害児の「発音・発語」学習	H18～毎年度
	魅力ある聴覚障害児教育を目指して	H15～毎年度
	聴覚障害児教育国際会議（西独）主要論文集	S56～毎年度
	ろう教育はじめの一歩―その理論と実践―	H12～毎年度
	幼稚園部教育課程（0～5歳児）	H11～毎年度
	発達障害を持つ聴覚障害児の教育・リハビリテーション	S61～毎年度
	ことばを豊かに育てる100の事例	H16～毎年度
	3歳児の指導	H7～毎年度
	0・1・2歳児の指導	H1
	幼稚園部3年間の子どもの姿	H16～毎年度
	実践事例集―幼稚園部教育課程資料―	H11～毎年度
	専門科パンフレット	毎年度
	教科書指導と読み書き・ICT活用―中学部における実践事例―	H22
附属大塚特別支援学校	研究紀要	毎年度
	支援部研究紀要	毎年度
附属桐が丘特別支援学校	学校案内	H16～
	研究紀要	S39～毎年度
	肢体不自由児Q & A	H20
	肢体不自由教育の理念と実践	H20
附属久里浜特別支援学校	学校案内パンフレット	H16～
	研究開発実施報告書	H16～毎年度
	自閉症教育実践研究協議会資料集	H16～毎年度
	自閉症教育実践研究協議会別冊資料自立生活活用事例集	H20
	「明日から使える自閉症教育のポイント」―子どもに学ぶ六年間の実践報告―	H21
	校報「きらきら」	H19～
	地域広報誌「のびのび」	H19～

3 特別支援教育の総合的支援体制の充実に関する具体的方策

(1) 超早期教育への取組状況

平成22年度附属学校教育局の新規事業として、「超早期段階における知的・重複・発達障害児に対する先駆的な教育研究モデル事業」が認められ、大塚特別支援学校を拠点に実施している。

事業概要等は、以下のとおりである。

事業概要

① 内容

知的障害児・重複障害児・発達障害児の早期発見・早期診断を行い、教育・指導方法のモデルとなる実践研究を展開し、効果的な指導の計画・方法並びに家庭や関係諸機関との円滑な連携について、「個別の教育支援計画」等に基づく超早期教育支援システムを構築し、その成果を全国に発信する。

② 期間

平成22年度～平成24年度（3年）

③ 予算額

平成22年度	34,780千円
平成23年度以降	52,400千円（予定）
合計	87,180千円

平成22年度実施状況

① 関係機関との連携方法及び手順の明確化

0歳～2歳への支援に関連する文京区内の諸機関の情報収集

② 支援の在り方の把握

文京区内の0歳～2歳を対象とする機関においてフィールド調査を実施

③ 「個別の教育支援計画」の様式及び作成手順案、これに基づく「家庭支援計画」案の作成

「個別の教育支援計画」は事例を通して、収集した「個別の指導計画」等の資料を参考に、「教育的診断」とそれに基づく「個別の教育支援計画」様式（案）および作成手順を検討。さらに、これに基づく「家庭支援計画」案を作成し、家庭での評価・支援の方法を明らかにする。

(2) 特別支援教育研究センターの取組状況

① 設立の経緯と組織

特別支援教育研究センターは、特別支援教育の理念を踏まえ、筑波大学が擁する我が国最大の障害科学系等の研究組織と、視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・自閉症の5つの附属特別支援学校という研究と実践の豊富な資源を基盤として、今後の特別支援教育の発展に資する様々な社会的要請に応えうる特別支援教育の研究拠点となることを目的として平成16年4月に設置された。

附属特別支援学校5校と大学院教育研究科特別支援教育専攻との連携は、本センターの事業の基盤を形作るものである。障害児教育に関わる「専門性の継承・発展・発信」「センター的機能の充実・発展」等を目的とし、大学院特別支援教育専攻、附属特別支援学校及びその他の関係機関との連携を支援するために、次の2点に重点をおき取り組んでいる。

- ・本学の研究部門と附属特別支援学校間との相互連携的活用の拠点
- ・様々な社会的要請に応えうる特別支援教育の連携拠点

本センターは筑波大学の学内共同教育施設として、附属学校教育局と障害科学系との連携を基盤とし、障害科学系大学教員4名（平成22年度に限り5名）と附属特別支援学校教諭5名によって運営されている。

② 平成22年度の事業

ア 連携・コーディネート事業

（ア）附属特別支援学校間の連携研究の推進

- ・「発達障害や重複障害のある幼児のアセスメントと支援方法、園へのコンサルテーションの在り方に

関する研究(2)座位の保持や移動に困難を抱える知的障害児の事例を通して」

(附属大塚特別支援学校、附属桐が丘特別支援学校)

・「「見えにくさ」のある肢体不自由児に対する社会科指導」

(附属桐が丘特別支援学校、附属視覚特別支援学校)

・「小中学校の「特別支援教室」に求められる役割と機能について～その(1)附属学校の教材教具の集約と、それを整備したりソースルールの試み～」

(附属大塚特別支援学校、附属視覚特別支援学校、協力校：文京区立柳町小学校)

(イ) 国際教育協力事業への協力

・JICA 本部「インクルーシブ教育を促進するためのターゲットグループを通じた教師養成—多様性の中で学ぼう」プロジェクト

・JICA 筑波「南米地域特別支援教育」プロジェクト

イ 研究開発事業

(ア) 特別支援教育に関わる現職教育のカリキュラム研究の開発

(イ) 現職教員研修のニーズ調査

ウ 理解啓発事業

(ア) センター主催セミナーの開催

・第12回 シリーズ：特別支援教育の展開(1)

11月27日 附属視覚特別支援学校体育館 参加者40名

テーマ「特別支援教育の課程を卒業した青年の現状と課題」

・第13回 シリーズ：特別支援教育の展開(2)

3月28日 附属中学校育鳳会館（震災のため中止）

連携研究の成果報告等

(イ) 研究交流セミナーの開催（障害科学系との共催）

1月7日 附属小学校講堂 参加者103名

テーマ「これからの特別支援教育がめざすもの」

(ウ) 「筑波大学特別支援教育研究」第5巻の発刊（3月）

エ 教員研修事業

(ア) 現職教員研修事業の運営

・現職教員研修生7名（埼玉県1名・千葉県2名・静岡県1名・長野県1名・秋田県2名の各教育委員会からの推薦・派遣）の受け入れ

・センター教員による講義（10回）

・センター教諭による演習（15回）

・附属聴覚特別支援学校、附属大塚特別支援学校、附属桐が丘特別支援学校における実習・研修

・筑波大学大学院教育研究科特別支援教育専攻等の講義の聴講

(イ) 免許法認定公開講座の運営

「特別支援教育の基礎理論」 受講者数 68名

「障害児の心理・生理・病理・教育課程・指導法論」 受講者数 88名

7月26日～31日 東京キャンパス神保町地区

オ 広報活動

(ア) センターパンフレットの発行（7月）

(イ) SNERC 通信の発行（5月、10月、12月、3月）

(ウ) ホームページの運営および管理

カ 外部資金導入研究（事業）

(ア) 文部科学省「平成22年度特別支援教育に関する教職員等の資質向上事業（特別支援学校教員の専門性向上）」

・免許法認定講習の開催および運営

「肢体不自由の指導法」「視覚障害の指導法」「聴覚障害の指導法」

総受講者数 71名

8月19日～22日、8月23日～26日、8月25日～28日

附属桐が丘特別支援学校、附属視覚特別支援学校、附属聴覚特別支援学校

(3) 普通附属と特別支援との連携状況

本学附属学校は普通附属学校が6校、附属特別支援学校が5校（視覚障害部門、聴覚障害部門、肢体不自由部門、知的障害部門、自閉症部門）設置されており、相互に交流を図っている。

附属学校名	内 容
附属小学校	<p>2部5年：大塚特別支援学校との交流プロジェクト活動報告 ねらい 交流に向けての諸活動を充実させることにより、自主的な活動に対する能力と他者に対する思いやりの心を育む。 テーマ どのような活動をどのような気持ちで行ったら、大塚特別支援学校の子どもたちが笑ってくれるかを考える。</p> <p>活動報告 5月21日(金)○大塚特別支援学校で交流 ・授業参観、参加・質疑応答 5月27日(木)○保谷 苗さし（2部5年だけで、下見を兼ねて） ○相田みつを美術館（交流の時の気持ちを詩に書き、附属大塚特別支援学校の子どもたちにプレゼントをすることを目的に、お気に入りの詩を見つける。）・館内見学・館長さんに質問タイム 6月4日(金)○東京心身障害者福祉センター見学※障害者に対するケア等、心がけたいことやポイントを学ぶ。 ・ビデオと見学、質問を2グループに分かれて行う。 6月24日(木)○保谷で交流会・ジャガイモ掘り・ゲーム・会食・片付け 10月21日(木)○秋の合同（附属大塚特別支援学校）さつまいも掘り 11月16日(火)○式典リハーサル（附属大塚特別支援学校）参加</p>
附属中学校	<p>①附属視覚特別支援学校との交流会…前年度の内容を踏まえて、改善すべきこと、新たに取組めることを検討し生徒会委員会（交流会準備委員会）にて実施（10/18） ・前半期における、視覚特別支援生徒会役員と、本校生徒会交流会委員会との打ち合わせ（6/25）を経て、交流会を実施した。前年度の実施を踏まえて、改善すべきこと、新たに取組めることを検討し、以下の形で実施。 ・全体会を挟んでの「スポーツ（ゴールボール）→トーク（小グループでの談話会）をローテーションで、交流」というスタイルを変え、「スポーツ（フロアバレー）グループと、ものづくり・トーク」に分ける。その結果、参加者の希望に応じた活動に長時間じっくり取り組む中で、交流をより深いものにしていけたと思われる。実施日程についても、校内アンケートをとる中で生徒の希望を重視し、結果として参加者を増やすことができた（10/18に実施）。また、活動の広がりに伴うとも考えられるマナー違反についても、事前に意識を高め、改善されたと思われる。この秋季交流会の成果と今後をテーマに、生徒会役員同士の反省会を行い、今後の方針を立てた。 ・学芸発表会（文化祭）での展示を充実させつつ、この活動を基盤にした新たな交流の在り方を模索したいと考えたが、この点については、昨年の活動を継続するにとどまった（継続課題）。</p> <p>②今後予定している取り組み ・附属視覚特別支援学校とのミニ交流会 秋の交流会の振り返りを経て、新生徒会の委員によるミニ交流会を計画している。視覚特別支援生徒に、附属中学校へ来てもらう形を考えている。内容は、フリートークを予定。今後、日程等を詰めていく。</p>
附属高等学校	<p>①大塚特別支援学校との桐陰祭交流 【実施内容】交流委員会指導 ○日時 2010年9月11日（見学・販売・展示）12日（展示のみ） ○内容 ・11日「桐陰祭」に、附属大塚特別支援学校中学部の生徒18名と教諭9名来校。本校交流委員の案内で3グループに分かれて桐陰祭見学（学年単位）。 ・2年1組教室を使って、半分を、絵画・焼き物・藍染・スリッパ等の大塚支援生徒の作品の販売・展示スペースに。残り半分を休憩室として確保。 ・「附属大塚特別支援学校についての簡単な解説」（交流委員作成）「学校要覧」「一言ノート」をあわせて展示。 【今後に向けて】</p>

	<p>猛暑の中の来校で、附属大塚特別支援学校の方々も大変でいらっしやった。見学の方は本校交流委員の案内が付き、販売及び呼び込みは附属大塚特別支援学校の先生・生徒が中心となっておこなった。大変元気がよく、多くの見学者があった。販売・展示とも好評で「一言ノート」にも感動の感想が記入されていた。今後も続けて欲しいとの感想あり。当日は3時間の日程と短い来校であったが、他の発表をかかえている交流委員にとっては、案内ローテーションはぎりぎりの確保だった。今年の経験を活かして次年度は委員が主で動く方向に持っていききたい。後日、附属大塚特別支援学校生徒の感想文・絵を持参して下さった。また、1-1のジェットコースターが好評で、附属大塚特別支援学校でもできないかとの問い合わせあり。</p>
<p>附属駒場中・高等学校</p>	<p>(1)継続した取組 ・保健体育科教員がブラインドサッカーをゼミナール（高校の「総合学習の時間」）にて実施した。来年度以降は、ブラインドサッカー協会ともコラボレーションして実施していき、附属駒場の社会貢献プロジェクトである、「筑駒アカデミア」などでも実施し、ブラインドサッカー普及への取り組みを深めていく予定。 (2)新たに取組んだこと ・特別支援学校との交流を視野に入れた同好会組織を立ち上げるに当たって、附属視覚特別支援学校を訪問させていただいた。また、この訪問の報告を本校文化祭において発表した。 ・附属視覚特別支援学校等で使用したい副読本などの点訳（PCでのテキスト入力）を本校生徒に行わせてみるなどを一つの例として、特別支援学校との間で、どのような連携が可能であるのかを検討すべく附属間交流のすべてに参加し、各特別支援学校についての理解を深めた。 (3)今年度は取組めなかったこと ・(2)にあるような、特別支援学校との連携へ向けての芽が出てき始めたが、実際の活動へと進めていくことが出来なかった。来年度のゼミナールで、センターの先生のご協力を頂いて「障害者理解」を開講予定。</p>
<p>附属坂戸高等学校</p>	<p>1. 今年度の取り組み (1)交流会 ①1年次生必修科目「産業社会と人間」における交流会。 ・附属大塚特別支援学校（11/2）－1クラス 附属桐が丘特別支援学校（10/19）－1クラス 附属聴覚特別支援学校（11/7）－1クラス 埼玉県立特別支援学校（10/19）－1クラス それぞれ高等部の生徒との交流会を計画している。 ・年度によって交流先が多少代わることがあるが、交流会自体は毎年継続して実施している。 ②その他の科目における交流計画 ・福祉科科目「パフォーマンスコミュニケーション」において、埼玉県立日高養護学校高等部の生徒と交流会を計画。（21年度は新型インフルエンザ流行のため中止） ・農業科目「生物活用技術」において、坂戸聴覚特別支援学校高等部生徒が授業に参加。授業後、本校で福祉科の科目を持つ生徒と交流会を実施。本年度で5年目。 ・農業科において、附属大塚特別支援学校の生徒（小学部）が本校農場を利用し、本校の生物資源環境科学系列の生徒と芋掘りを実施。（1/14） ・農業科において、県立視覚特別支援学校小学部の生徒と交流。（12/22） ・県立聾学校の生徒が本校工場を利用して機械加工実習を実施。（11/4・11・18） 2. 新たに取組んだこと、今年度取組めなかったこと (1)新たに取組んだこと 附属大塚特別支援学校との交流 12/17事前学習（大塚の先生に坂戸に来てもらい授業） 1/28 交流（大塚に行き交流、工房わかざりとも交流） 2/4 事後学習（大塚の先生に坂戸に来てもらい授業） (2)今年度は取組めなかったこと 附属久里浜特別支援学校との交流</p>
<p>附属視覚特別支援学校</p>	<p>①幼稚部：近隣幼稚園（青柳幼稚園）との交流保育、毎週1日（年長児2名と幼稚部教員）青柳幼稚園での保育に参加 ②小学部：居住地交流（東京都内、神奈川県、埼玉県等の居住地の小学校）1月24日(月)～26日(水)/青柳祭り（近隣の青柳小学校において実施）への参加：ペアフレンド、盲学校コーナーにおける啓蒙活動と交流 9月30日(木)/運動会に青柳小学校児童参加 10月9日(土)/附属坂戸高校への芋掘り遠足 10月22日(金) ③中学部：附属中学校との交歓会（フロアバレー、ものづくり・トーク）10月18日(月)/附属中学校とのミニ交流会（フリートーク）3月11日(金) ④高等部：東京学芸大学附属高校との交換会 12月16日(木)/附属高校との交流（高等部の生徒が、附高の柔道部の練習に参加して指導を受けている） ⑤高等部専攻科鍼灸手技療法科：筑波大学医学専門学群医学類4年生アドヴァンストコース学生との交流会 6月28日(月)</p>

<p>附属聴覚特別支援学校</p>	<p>1. 幼稚部：真間山幼稚園との交流（月1回交流） 2. 小学部：①国府台小学校とのヤゴ取り ②国府台小学校との給食交流 12月～1月にかけて 全学年実施 3. 中学部：市川市1中と文化祭の展示物の交換、中学部職員の聴覚障害に関する授業 4. 高等部：①浜田ろう学校が修学旅行にて来校、伝統芸能等の紹介 ②坂戸校11月 手話コーラスを体験 約30名来校</p>
<p>附属大塚特別支援学校</p>	<p>(1)小学部と附属小学校との連携 ①芋掘り交流事前歓迎交流会（5月21日） ・本校体育館にて、附属小学校児童5年生に本校小学部生徒が歓迎会を行う。 ・事後に本校教師と附属小学校児童による質問会も行われる。 ②芋掘り交流会（6月24日） ・筑波大学附属小学校保谷田園教場にて、ジャガイモ収穫、調理および昼食会、集会などを行った。 ③秋の芋掘り交流会（10月21日） ・筑波大学附属小学校保谷田園教場にて、さつまいも収穫、調理および昼食会、集会などを行った。 ④本校体育館にて50周年記念行事発表演目披露、学習会の実施（11月16日） ・筑波大学附属小学校5年生の児童に、本校の舞台発表の予行練習を見学してもらう。 (2)中学部と附属高等学校による文化祭交流 ①事前打ち合わせ…附属高等学校生徒の大塚特別支援学校への見学など ・交流委員会の生徒と中学部教員との打ち合わせ（9月1日） ・本校中学部の授業見学…主に作業学習、附属高校交流委員会4名（9月10日） ②「桐陰祭」への作品展示及び作業製品の紹介、販売、参加（9月11日） ③事後学習→附属高校交流委員会からお礼のお手紙、本校からは感想文や絵の交換 (3)高等部と附属坂戸高校との交流 ①附属坂戸高校の「産業社会と人間」の授業の一環として交流する。（11月2日） ・高等部が坂戸高校へ訪問する（一日） ・午前中は農園や飼育の見学、搾乳体験 ・午後はキックベースボール大会での交流などで親睦をはかる。 ②本校への作業交流会 附属坂戸高校（11月2日） ・事前学習…大塚の教員が附属坂戸高校で授業（12月17日） ・作業交流授業（1月28日）本校高等部作業班（焼き物班、木工班、印刷総合班）と一緒に作業体験を行い、交流する。 ・事後学習…大塚の教員が附属坂戸高校で授業（2月4日）</p>
<p>附属桐が丘特別支援学校</p>	<p>(1)附属坂戸高等学校との交流会 1. 附属坂戸高等学校側から、原則履修科目「産業社会と人間」での授業としての必要性から打診があり、平成6 or 7年度頃から両校での交流会が開始し、それ以来毎年1回継続して実施している。 2. 実施形態 ①対象学年：・附属桐が丘特別支援学校高等部全学年・附属坂戸高等学校第1学年の1クラス（他の特別支援学校改修により2クラスを対象とした年度もあり） ②実施時期：2学期（例年10月～11月の1日で実施） ③実施校舎：当初は3年間周期で考え、附属桐が丘特別支援学校2回、附属坂戸高等学校で1回という話が出ていたが、ここ数年は附属坂戸高等学校に来てもらっている。（平成16・17年度：附属桐が丘特別支援学校で実施、平成18年度：附属坂戸高等学校で実施、平成19年以降附属桐が丘特別支援学校で実施） (2)平成22年度 居住地校交流について ①居住地校交流の計画と実施（各学級担任と保護者との連携、各教育委員会との連携、対象となる小中学校への打診や事前の調整等）—小学部18名（調整中2名含）、中学部3名—直接交流（小17名、中1名）、間接交流（小1名、中2名） ②交流の内容、交流の目的を踏まえた小学校等との調整により、個別に設定している。 例：交流の時間—1校時～4校時、1校時～給食、1校時～6校時など。日程—1学期1回程度、月1回程度、行事前に連続2日間など ③交流の記録の集約 各回に、付添の保護者または教員による記録の作成をした。教科の学習に関する評価は行わないが、教員が付き添わない場合の子どもの活動の様子などの共有のために活用している。 例：小学部6年生児童の交流の記録（抜粋）・居住地校交流の評価（今年度も3月に校内の担任および保護者へのアンケートの実施を予定）、子ども、保護者、担任の3者それぞれの立場からの交流の意義についてアンケートをとる。例：地域とのつながり、小中学校での活動の経験・子どもどうしのコミュニケーションの機会、保護者が地域の子どもの様子を知る、担任が地域の小学校の様子を知る……など コメント：・今年度は、インフルエンザの対応も通常に戻ったので、比較的コンスタントに継続できた。・附属も副籍による交流として位置づけていただいている自治体も増えてきた。（板橋、杉並、豊島、足立）</p>

<p>附属久里浜特別支援学校</p>	<p>1. 交流</p> <p>①横須賀市立明浜小学校 年5回程度、学期1～2回、小学部全児童、小学校6年生（1学級）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学校で活動計画を作成し、実施した。 ・小学校児童は、子供たちで話し合いをし、活動の計画を行った。本校教員が、小学校児童に対し、自閉症児のかかわり方等を話す時間を数回設定したことで、計画や活動を混乱なく進めることができた。 ・本校での実施については、教員が計画を立て、実施した。事前に活動内容と活動中の注意事項などについて伝えたことで、混乱なく活動を進めることができた。 <p>②学校法人横須賀信証学苑信証幼稚園 年6回程度、2か月に1回程度、幼稚部全幼児</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先方の都合により、未実施。 ・次年度に向け、新たな交流先を検討中である。 <p>③きらきらコンサート 7月24日 東京学芸大学特別支援教育専攻の「若竹ミュージカル」</p> <p>2. 公開講座 年1回、12月11日、地域の関係機関等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・附属大塚特別支援学校支援部と横浜市社会福祉協議会 障害者支援センターへ話題提供を依頼し実施した。 ・地域で障害児の療育や支援に当たっている方々や保護者に対して、地域生活の視点から、自閉症教育に関わる先導的な取組や実践的経験などについて、広く情報提供を行った。 <p>3. その他 広報誌「のびのび」年3回発行</p>
--------------------	--

4 社会貢献・地域連携

(1) 研修会・公開講座の実施状況

本学附属学校では、多くの研修会や公開講座等を実施している。

平成22年度研修会公開講座実施状況

区分	名称	開催日	会場	参加者数
附属小学校 附属中学校 附属高等学校	第4回 算数・数学科合同研究会	2010年7月10日	附属中学校	81
	第6回 保健体育科合同研究会	2011年1月22日	附属中学校	116
附属駒場中・高等学校	数学科教員研修会 in 筑駒	2010年12月5日	同校	127
	筑駒アカデミア（講演会「わたしの竜馬伝」）	2010年12月11日	同校	197
	筑駒アカデミア（講演会「グローバル化時代の日本」）	2011年12月14日	同校	127
	筑駒アカデミア（講演会「骨粗鬆症・ロコモティブ症候群を防ぐには」）	2011年1月22日	同校	133
附属坂戸高等学校	埼玉県公立高等学校坂戸地区養護教諭研修会	2010年7月2日	同校	10
	埼玉県農業高等学校協会「最先端技術研修会」	2010年7月	同校	18
	地域貢献プログラム「つくさか地域食育支援プロジェクト」	2010年 季節ごと随時	附属坂戸 南小学校 坂戸中学校	20
	坂戸市福祉協議会へのイベントのためのワークショップを兼ねた実践	2010年12月18日	坂戸市文化施設「オルモ」	50
附属視覚特別支援学校	歩行指導者研修会	2010年7月20日～24日	同校	27
	理数系教員指導力向上研修会	2010年8月5日～6日	同校	31
	文部科学省委託事業「盲学校理学療法科担当教員講習会」	2010年8月2日～6日	同校	9
	点字指導者研修会	2010年11月20日～21日	同校	17
	公開講座「盲・弱視児童生徒理科実験指導研修講座」	2010年2月17日～18日	同校	16
附属聴覚特別支援学校	関東地区聾教育研究会「聾教育実践研修会」	2010年6月17日～18日	同校	125
	公開講座「聴覚障害・発音指導研修講座」	2010年8月10日～11日	筑波大学 東京キャンパス 神保町地区	61
	文部科学省委託事業「聴覚障害教育担当教員講習会」	2010年11月24日～26日	同校	68
	聴覚障害早期教育公開研修会	2011年2月26日	同校	27
附属大塚特別支援学校	公開講座「特別支援教育における個のニーズに基づく授業づくりプロセス～ティームティーチングと授業評価」	2010年 7月21日～23日	同校	14
	ボランティア養成講座 I	2010年6月20日 演習日 6/22、6/23 7/7、8/29	同校	5
	公開研修「特別な支援を必要とする子の理解と援助ーよりよい支援のための実技と演習ー」	2010年7月30日～31日	同校	51
	ボランティア養成講座 II	2010年8月1日 演習日 9/9、9/15、 9/26、10/6、10/18	同校	11
	公開講座「自閉症児における社会性支援プログラムの実際」	2010年7月30日	同校	64

附属桐が丘特別支援学校	公開講座「障害児に対する動作法実習」	2010年6月19日～20日	同校	32
	動作法夏季集中訓練会	2010年7月23日～27日	同校	15
	夏期親子集中学習会・自立活動研修会	2010年7月24日、25日、31日、8月1日	同校	52
	自立活動実践セミナー2010	2010年8月2日～4日	同校	110
	公開講座「教師のためのデータ分析」	2010年9月11日～12日	同校	14
	公開講座「静的弛緩誘導法による障害の重い子の成長・発達の援助」	2010年11月27日～28日	同校	53
	公開講座「特別な教育的ニーズのある子どもの学習支援」	2010年12月25日～26日	附属学校教育局	33
	冬期親子集中学習会・自立活動研修会	2010年12月25日、26日、27日	同校	62
	動作法冬季訓練会	2010年12月25日、26日、27日	同校	21
附属久里浜特別支援学校	自閉症世界デー in 久里浜「自閉症の世界を知ろうよ」	2010年4月16日	横須賀市総合高校	158
	公開セミナー「地域で生きる―自立を支える立場から―」	2010年12月11日	同校	60
附属学校教育局	平成22年度 附属学校教育局春期研修会	2011年2月26日	附属中学校育鳳館	252
特別支援教育研究センター	免許法認定公開講座「特別支援教育の基礎理論」	2010年7月26日～27日	東京キャンパス 神保町地区	68
	免許法認定公開講座「障害児の心理・生理・病理・教育課程・指導法論」	2010年7月28日～31日	東京キャンパス 神保町地区	88
	免許法認定講習「肢体不自由の指導法」	2010年8月19日～22日	附属桐が丘特別支援学校	25
	免許法認定講習「視覚障害の指導法」	2010年8月23日～26日	附属視覚特別支援学校	19
	免許法認定講習「聴覚障害の指導法」	2010年8月25日～28日	附属聴覚特別支援学校	22
合計				2,489

5 管理運営

(1) 附属学校児童生徒定員等一覧

本学附属学校の幼児・児童・生徒数は11校で4,310人である。

附属学校定員等一覧表（平成22年5月1日現在）

学校名等		学年数	組数		総組数	1組定員	総定員	現員	
小学校		6学年	各学年	4組	24	40	960	947	
中学校		3学年	各学年	5組	15	40	600	612	
駒場中学校		3学年	各学年	3組	9	40	360	369	
高等学校		3学年	各学年	6組	18	40	720	719	
駒場高等学校		3学年	各学年	4組	12	40	480	491	
坂戸高等学校		3学年	各学年	4組	12	40	480	475	
視覚特別支援学校	幼稚部	3学年	3・4歳児 5歳児	1組	2	5	10	10	
	小学部	6学年	各学年	1組	6	6	36	17	
			複式学級	2組	2	6	12	11	
			特別学級	2組	2	3	6	6	
	中学部	3学年	各学年 盲	1組	3	6	18	16	
			各学年 弱	1組	3	6	18	18	
	高等部	3学年	普通科 各学年	2組	6	8	48	48	
			音楽科	1組	1	8	8	4	
	専攻科	鍼灸手技療法科	3学年	各学年	2組	6	8	48	44
		音楽科	2学年	各学年	1組	2	8	16	4
		理学療法科	3学年	各学年	1組	3	8	24	13
鍼灸手技療法研修科		1学年	各学年	1組	1	8	8	4	
合計					37		252	195	
聴覚特別支援学校	幼稚部	3学年	各学年	3組	9	5	45	31	
	小学部	6学年	各学年	2組	12	6	72	70	
	中学部	3学年	各学年	2組	6	6	36	47	
	高等部	3学年	各学年	3組	9	8	72	79	
	専攻科	造形芸術科	2学年	各学年	1組	2	8	16	6
		ビジネス情報科	2学年	各学年	1組	2	8	16	8
		歯科技工科	3学年	各学年	1組	3	10	30	14
合計					43		287	255	
大塚特別支援学校	幼稚部	3学年	3・4・5歳児	2組	2	5	10	9	
	小学部	6学年	普通学級	3組	3	6	18	16	
			特別学級	2組	2	3	6	5	
	中学部	3学年	各学年	1組	3	6	18	18	
	高等部	3学年	各学年	1組	3	8	24	24	
合計					13		76	72	
桐が丘特別支援学校	本校小学部	6学年	普通学級 各学年	1組	6	6	36	24	
			特別学級	5組	5	3	15	14	
	本校中学部	3学年	普通学級 各学年	1組	3	6	18	19	
			特別学級	4組	4	3	12	11	
	本校高等部	3学年	普通学級 各学年	1組	3	8	24	24	
			特別学級	4組	4	3	12	7	
	本校小計					25		117	99
	施設併設学級小学部	6学年	普通学級	1組	1	6	6	4	
特別学級			2組	2	3	6	14		
施設併設学級中学部	3学年	普通学級	1組	1	6	6	2		
		特別学級	1組	1	3	3	2		

	施設併設学級高等部	3 学年	特別学級	1 組	1	3	3	2
	施設併設学級小計				6		24	24
	合 計				31		141	123
久里浜特別支援学校	幼稚部	3 学年	各学年	2 組	6	3	18	16
	小学部	6 学年	各学年	2 組	12	3	36	36
	合 計				18		54	52
附 属 学 校 合 計		11校			232		4,410	4,310

(2) 附属学校教員現員数

本学附属学校の教員数（校長等含む。）は541名である。

附属学校教員現員数〔平成22年7月1日現在〕

学 校 名	校長	副校長 主幹教諭 教諭	養護教諭	栄養教諭	寄宿舎 指導員	実習助手	合 計
附属小学校	1	34	1	1			37
附属中学校	1	29	1				31
附属駒場中学校	1	15	1				17
附属高等学校	1	41	1				43
附属駒場高等学校	(1)	28	1				29
附属坂戸高等学校	1	37	1			3	42
附属視覚特別支援学校	1	83	1	1	17		103
附属聴覚特別支援学校	1	85	1		9		96
附属大塚特別支援学校	1	36	1	1			39
附属桐が丘特別支援学校	1	63	1	1			66
附属久里浜特別支援学校	1	30	1	1	5		38
合 計	10	481	11	5	31	3	541

※ 1 再雇用教員を含む。

※ 2 契約職員（教諭）を含む。

※ 3 駒場中学校と駒場高等学校の校長は兼任である。

所在地・連絡先

部 局 名	所 在 地	電話番号
附属学校教育局	[平成23年8月まで] 〒112-0006 東京都文京区小日向2-16-15 [平成23年9月以降] 〒112-0012 東京都文京区大塚3-29-1	03-3942-6800
附属小学校	〒112-0012 東京都文京区大塚3丁目29-1	03-3946-1391
附属中学校	〒112-0012 東京都文京区大塚1丁目9-1	03-3945-3231
附属高等学校	〒112-0012 東京都文京区大塚1丁目9-1	03-3941-7176
附属駒場中学校	〒154-0001 東京都世田谷区池尻4丁目7-1	03-3411-8521
附属駒場高等学校	〒154-0001 東京都世田谷区池尻4丁目7-1	03-3411-8521
附属坂戸高等学校	〒350-0214 埼玉県坂戸市千代田1丁目24-1	049-281-1541
附属視覚特別支援学校	〒112-0015 東京都文京区目白台3丁目27-6	03-3943-5421
附属聴覚特別支援学校	〒272-8560 千葉県市川市国府台2丁目2-1	047-371-4135
附属大塚特別支援学校	〒112-0003 東京都文京区春日1丁目5-5	03-3813-5569
附属桐が丘特別支援学校	〒173-0037 東京都板橋区小茂根2丁目1-12	03-3958-0184
附属久里浜特別支援学校	〒239-0841 神奈川県横須賀市野比5丁目1-2	046-848-3441
特別支援教育研究センター	[平成23年8月まで] 〒112-0006 東京都文京区小日向2-16-15 [平成23年9月以降] 〒112-0012 東京都文京区大塚3-29-1	03-3942-6923
理療科教員養成施設	[平成23年8月まで] 〒112-0006 東京都文京区小日向2-16-15 [平成23年9月以降] 〒112-0012 東京都文京区大塚3-29-1	03-3942-6890

IMAGINE THE FUTURE.

平成 22 年度 筑波大学附属学校教育局データ集

筑波大学附属学校教育局学校支援課

編集・発行●(平成 23 年 8 月まで)

〒112-0006 東京都文京区小日向 2-16-15

〔平成 23 年 9 月以降〕

〒112-0012 東京都文京区大塚 3-29-1

電話：03 (3942) 6800 (代) FAX：03 (3942) 6911

ホームページ●<http://www.gakko.otuka.tsukuba.ac.jp>